

(品目別需給編)

1 小麦

(1) 国際的な小麦需給の概要（詳細は右表を参照）

<米国農務省（USDA）の見通し> 2021/22年度

生産量 前年度比 ↑ 前月比 ↑

- EU 等で下方修正も、アルゼンチン等で上方修正され、前月から上方修正された。史上最高の見込み。

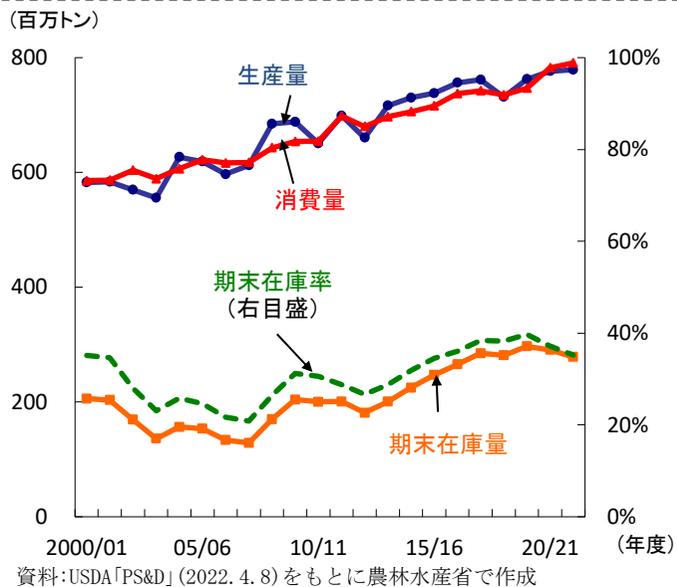
消費量 前年度比 ↑ 前月比 ↑

- ブラジル等で下方修正も、インド等で上方修正され、前月から上方修正された。史上最高の見込み。

輸出量 前年度比 ↓ 前月比 ↓

- ロシア、アルゼンチン等で上方修正も、EU、ウクライナ等で下方修正され、前月から下方修正された。

期末在庫量 前年度比 ↓ 前月比 ↓



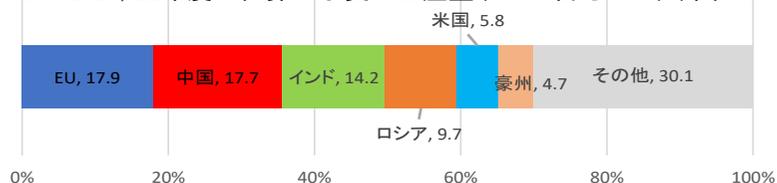
◎世界の小麦需給

(単位：百万トン)

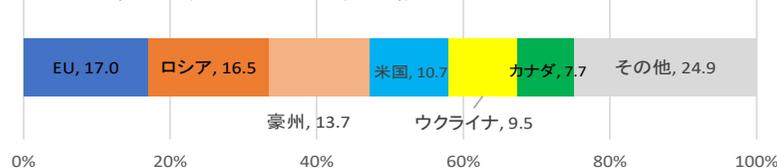
年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	762.4	776.3	778.8	0.3	0.3
消費量	746.8	782.4	791.1	3.8	1.1
うち飼料用	139.7	157.7	162.2	0.1	2.9
輸出量	193.9	202.6	200.1	▲ 3.0	▲ 1.3
輸入量	188.4	194.8	197.2	▲ 4.1	1.2
期末在庫量	296.8	290.7	278.4	▲ 3.1	▲ 4.2
期末在庫率	39.7%	37.1%	35.2%	▲ 0.6	▲ 2.0

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」 (8 April 2022)

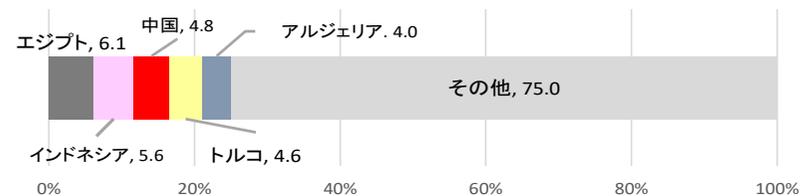
○ 2021/22年度の世界の小麦の生産量(778.8百万トン)(単位：%)



○ 2021/22年度の世界の小麦の輸出量(200.1百万トン)



○ 2021/22年度の世界の小麦の輸入量(197.2百万トン)



(2) 国別の小麦の需給動向

< 米国 > 2021/22 年度の輸出量は過去 6 年で最低水準

【生育・生産状況】USDA によれば、2021/22 年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、44.8 百万トン(冬小麦：34.8 百万トン、春小麦：9.0 百万トン、デュラム小麦：1.0 百万トン)の見込み。

USDA「Prospective Planting Report」(2022.3.31)によれば、2022/23 年度の小麦の作付意向面積は前年度に比べ 1.4%増加の 19.2 百万ヘクタールと、史上 5 番目に低い水準となったものの、2020/21 年度から 2 年連続で増加する見込み。

「Wheat Outlook」(2022.4.12)によれば、2022/23 年度の冬小麦の生育状況は 4 月 5 日現在、3 月よりわずかに改善したものの、ハード・レッド・ウインター(HRW)の主要生産地であるカンザス州西部等を含め、冬小麦生産地の 69%が干ばつ状態となっている。「Crop Progress」(2022.4.18)によれば、4 月 17 日時点の冬小麦の作柄評価(良からやや良の割合)は、30%と前年度同時期(53%)を下回っている。冬小麦の主要生産地の作柄評価は、干ばつによる休眠期への影響から、カンザス州 33%(前年度同時期 55%)、オクラホマ州 21%(同 70%)、テキサス州 6%(同 28%)と前年度に比べ悪化している。また、デュラム小麦産地は、前年度(90%)と同様 86%が干ばつ状態となっている。一方、春小麦は、生産地の 46%が干ばつ状態であるものの、前年同時期(80%)と比べ改善している。このため、干ばつが解消した主要生産地のノースダコタ州東部とミネソタ州でのハード・レッド・スプリング(HRS)の作付け条件は、前年度に比べ改善する見通し。

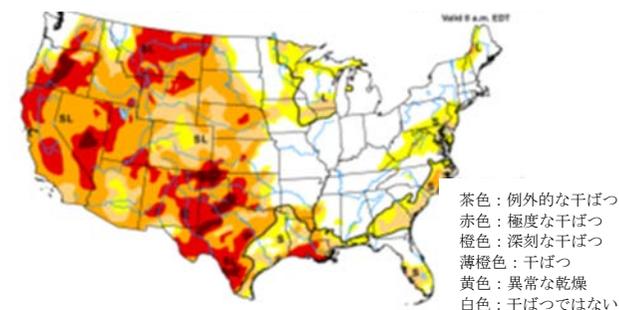
【貿易情報・その他】USDA によれば、ロシアによるウクライナ侵攻により、EU や黒海地域産小麦と競合する HRW とソフト・レッド・ウインター(SRW)の輸出価格は急騰。しかし、4 月に入り東南アジア及び中国の需要減が続き、下落傾向となった。また、2021/22 年度の輸出量は、輸出の伸び悩みや相対的に高い価格から、前月予測から 0.4 百万トン下方修正され、21.4 百万トンと過去 6 年間で最低の水準となっている。その中で、最近の価格上昇により最も輸出に影響を受けた HRW 及び SRW の輸出量は、前月に比べそれぞれ 0.3 百万トン、0.1 百万トン下方修正され、8.4 百万トン、3.0 百万トンとなった。その減少の主な要因は、米国産からより安価な豪州産等へのシフトである。

小麦—米国 (冬小麦が全体の 7 割、春小麦は 3 割)

年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	52.6	49.8	44.8	-	▲ 10.0
消費量	30.4	30.5	30.6	▲ 0.3	0.3
うち飼料用	2.6	2.6	2.7	▲ 0.3	5.0
輸出量	26.4	27.0	21.4	▲ 0.4	▲ 20.9
輸入量	2.8	2.7	2.6	-	▲ 5.1
期末在庫量	28.0	23.0	18.5	0.7	▲ 19.8
期末在庫率	49.3%	40.0%	35.5%	1.8	▲ 4.5

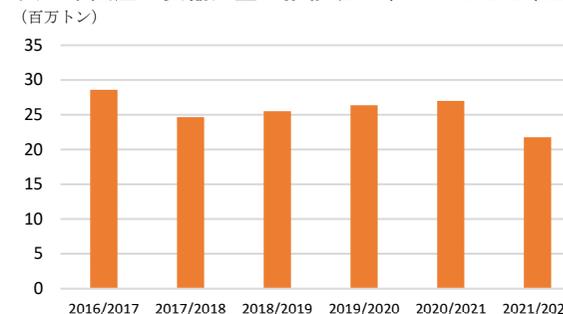
(参考)
 収穫面積(百万ha) 15.13 14.89 15.04 - 1.0
 単収(t/ha) 3.47 3.34 2.98 - ▲ 10.8
 資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」
 「World Agricultural Production」(8 April 2022)

図 米国の干ばつ状況(2022 年 4 月 5 日時点)



資料：U.S Drought Monitor (2022.4.7)

図 米国産小麦輸出量の推移(2016/17 から 2021/22)



資料：USDA「PS&D」(2022.4.8)をもとに農林水産省で作成

< カナダ > 2021/22 年度期末在庫は減産により過去最低の見通し

【生育・生産状況】USDA によれば、2021/22 年度の生産量は、前月予測からの変更はなく 21.7 百万トン。カナダ西部の干ばつの影響から前年度に比べ 38.5%減少し、2008/09 年度以降最低。

カナダ農務農産食品省(AAFC)「Outlook For Principal Field Crops」(2022.4.20)によれば、生産量は前月予測からの変更はなく、21.7 百万トンの見込み。そのうち、デュラム小麦は前年度から 60%減の 2.7 百万トン、普通小麦は前年度から 34%減の 19.0 百万トンの見込み。

また、AAFC によれば、2022/23 年度の播種面積は、前年度(9.5 百万ヘクタール)から 5.5%増の 10.0 百万ヘクタール。生産量は前年度(21.7 百万トン)から 43.9%増の 31.2 百万トンの見込み。

そのうち、デュラム小麦は高水準な価格等から播種面積は前年度から 9%増の 2.5 百万ヘクタール。アルバータ州南部とサスカチュワン州では干ばつの兆候があるものの、前年度の干ばつで減少した単収が回復すれば生産量は前年度(2.7 百万トン)の約 2 倍の 5.5 百万トンと、過去 5 年平均並となる見込み。また、普通小麦も高水準な価格等から、播種面積は前年度から 5%増加し 7.6 百万ヘクタールの見込み。また、デュラム小麦と同様に、単収が回復(3.44 トン/ヘクタール)すると、生産量は前年度から 35.0%増加し 25.6 百万トンと過去 5 年平均を上回る見込み。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2021/22 年度の輸出量は、前月予測からの変更なく 15.5 百万トンと、2005/06 年度以降最低の見込み。

カナダ穀物委員会(Canadian Grain Commission)によれば、2022 年 2 月の輸出量は普通小麦が 1.0 百万トン、デュラム小麦は 0.2 百万トンの計 1.2 百万トンで、輸出先国は、普通小麦は日本(22.3%)、バングラデシュ (15.3%)、デュラム小麦はアルジェリア(70.2%)、モロッコ(16.1%)の順。なお、2022 年以降、中国向けの輸出はほとんどない。

また、USDA によれば、期末在庫量は 2.9 百万トンと対前年度比 48.3%減、1960 年以降で最低。

AAFC によれば、2022/23 年度のデュラム小麦の輸出量は、天候不順による生産量の減少が予想される北アフリカからの輸入需要増加から、前年度(2.4 百万トン)を上回る 4.3 百万トンの見込み。また、普通小麦は黒海諸国、特にウクライナからの輸出の減少と世界的な需要の増加から、前年度(13.2 百万トン)を上回る 17.3 百万トンの見込み。

小麦－カナダ（春小麦を主に栽培）

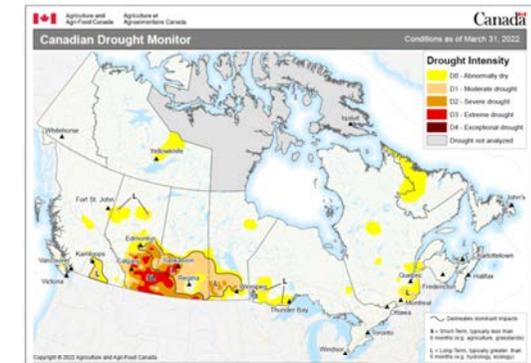
(単位：百万トン)

年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22		
			予測値、() はAAFC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	32.7	35.2	21.7 (21.7)	-	▲ 38.5
消費量	9.8	9.1	9.5 (8.2)	-	▲ 4.1
うち飼料用	4.6	4.2	4.5 (4.1)	-	▲ 7.7
輸 出 量	24.1	26.4	15.5 (15.6)	-	▲ 41.4
輸 入 量	0.7	0.6	0.6 (0.2)	-	▲ 9.1
期末在庫量	5.5	5.7	2.9 (3.8)	▲ 0.0	▲ 48.5
期末在庫率	16.2%	15.9%	11.7% (15.8%)	▲ 0.1	▲ 4.3
(参考)					
収穫面積(百万ha)	9.66	10.02	9.25 (9.25)	-	▲ 7.7
単収(t/ha)	3.38	3.51	2.34 (2.34)	-	▲ 33.3

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(8 April 2022)

AAFC 「Outlook For Principal Field Crops」(20 April 2022)

図 カナダの干ばつ状況(2022年3月31日時点)



資料：カナダ農務農産食品省(AAFC)

表 カナダ産普通小麦及びデュラム小麦の輸出先国(2022年2月)
〈普通小麦〉 〈デュラム小麦〉

	国名	輸出量 (万トン)	輸出量シェア (%)	国名	輸出量 (万トン)	輸出量シェア (%)
1	日本	22.4	22.3	アルジェリア	13.2	70.2
2	バングラデシュ	15.5	15.3	モロッコ	3.0	16.1
3	インドネシア	12.8	12.7	米国	1.3	6.9
4	コロンビア	11.0	10.9	コロンビア	0.5	2.9
5	英国	6.0	6.0	インドネシア	0.4	2.1
6	その他	32.9	32.7	その他	0.4	1.9
計		100.7	100.0	計	18.9	100.0

注1: Canadian Grain Commissionが認可したエレベーターから輸出された小麦(Licensed)のみのデータ。

注2: 普通小麦の品種はNO. 1-Canada Western Red Spring, No. 2 Canada Prairie Spring, No. 1 Canada Western Red winter, No. 2 Canada Eastern, Other. デュラムはCanada Western Amber Durum Others

資料: Canadian Grain Commission 「Export of Canadian Grain and Wheat Flour」(2022年3月23日)をもとに作成。

< 豪州 > 2021/22 年度の生産量、輸出量は史上最高の見通し

【生育・生産状況】USDA によれば、2021/22 年度の実生産量は、前月予測からの変更はなく史上最高の 36.3 百万トンの見込み。

2022/23 年度の小麦の播種が開始された 4 月上旬、西オーストラリア州で散発的な降雨があり、土壌水分が補給された。一方、南オーストラリア州(SA)やビクトリア州(VIC)の一部では乾燥した天候となっている。

GIWA (西オーストラリア州穀物団体) (2022.4)によれば、当初肥料価格等の高騰により 2022/23 年度の実生産・油糧種子の作付面積は、前年度より減少見通しであったが、4 月の降雨や穀物・油糧種子価格の高騰によりカバーできるとして、州全体で前年度並みの 9.2 百万ヘクタールに上方修正された。

なお、現地情報会社によれば、ロシアが制裁の対抗策として豪州への肥料の輸出を止めていることや、ロシアによるウクライナ侵攻の影響で肥料価格が上昇していることから、施肥量が減少し、豪州の実生産量は減少する可能性がある。

【貿易情報・その他】USDA によれば、史上最高の生産量や、他の主要輸出国に比べ価格競争力があることから、2021/22 年度の実輸出量は、前月予測からの変更なく、27.5 百万トンと史上最高となる見込み。米国産や EU 産の輸出価格が低下する一方、サブサハラアフリカや東南アジア等からの世界的な需要により豪州産の 4 月 6 日時点の輸出価格(FOB)は、431 ドル/トンと 3 月 7 日時点の 425 ドル/トンから上昇した。

豪州統計局によれば、2 月の輸出量は、前月(2.76 百万トン)に比べ 2.83 百万トンと微増した。同月の輸出先国は、インドネシア(13%)、中国(11%)、フィリピン(11%)の順である。

なお、2021/22 年度の実豪州産が史上最高となったことに加え、北米の減産、ロシアのウクライナ侵攻による需要の集中から、輸出スロットの確保が難しい状況となっており、物流の遅延や混乱、輸入国の穀物輸入コストの増加が生じている。

こうした背景から、世界最大の小麦輸入国のエジプトは、豪州産の手当てをあらかじめ、インド産の手当てを行っている模様。

小麦—豪州 (冬小麦を主に栽培)

(単位:百万トン)

年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	14.5	33.3	36.3 (36.3)	-	9.0
消費量	8.0	8.0	9.0 (9.5)	-	12.5
うち飼料用	4.5	4.5	5.5 (5.7)	-	22.2
輸 出 量	9.1	23.9	27.5 (24.0)	-	15.3
輸 入 量	0.9	0.2	0.2 (0.3)	-	-
期末在庫量	2.7	4.3	4.3 (7.4)	-	-
期末在庫率	15.6%	13.6%	11.9% (22.1%)	-	▲ 1.7
(参考)					
収穫面積(百万ha)	9.86	12.90	13.00 (13.0)	-	0.8
単収(t/ha)	1.47	2.58	2.79 (2.79)	-	8.1

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(8 April 2022)
IGC 「Grain Market Report」(17 March 2022)

図:豪州の輸出先国別輸出量(2022年2月、2022年1月~2月)

2022年2月			2022年1月~2月		
国名	輸出量(万トン)	シェア(%)	国名	累積輸出量(万トン)	シェア(%)
インドネシア	35.8	12.6	中国	100.9	18.0
中国	32.2	11.4	インドネシア	81.8	14.6
フィリピン	31.8	11.2	フィリピン	66.3	11.9
ベトナム	28.7	10.1	ベトナム	50.8	9.1
マレーシア	17.9	6.3	マレーシア	31.3	5.6
その他	137.1	48.4	その他	228.3	40.8
合計	283.4	100.0	合計	559.5	100.0

資料:豪州統計局のデータをもとに農林水産省で加工

写真:豪州西オーストラリア州の小麦の作付(2022年4月1日)



豪州の中央小麦地帯では小麦の播種が始まり、生産者全員が 24 時間体制で播種作業を行っている。
3 月に熱帯性サイクロン「シャーロット」が発生。
この降雨で、播種を始めるにあたり、必要とされる土壌水分量が供給された。

＜ EU27+英国 ＞ウクライナ産とうもろこしの代替として飼料用小麦需要が増加

【生育・生産状況】USDAによれば、EU27及び英国の2021/22年度の生産量は、前月予測から0.6百万トン下方修正され152.4百万トンの見込み。そのうち、EU27は前月予測から0.6百万トン下方修正され138.4百万トン、英国は前月予測からの変更はなく14.0百万トンの見込み。

2022/23年度の生育状況は、欧州中央部、北部、東部で温暖な天候と降雨が生育中の小麦に好影響を与えた。フランスからイタリアにかけては短期間であるが深刻な乾燥に見舞われ、生殖生長期の小麦にとって、降雨が必要とされている。スペイン、ポルトガルでは更なる降雨があり、生殖生長期の小麦の生育の見通しは良好である。

フランスアグリメール(2022.4.11)によれば、普通小麦及びデュラム小麦の生育状況は前年度に比べ良好で、普通小麦の生育状況を表す「とても良い～良い」の割合は前年度の86%を上回る92%であり、またデュラム小麦の「とても良い～良い」の割合は前年度の80%を上回る84%となっている。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2021/22年度のEU27及び英国の消費量は、前月予測から0.6百万トン上方修正され、123.6百万トンの見込み。そのうち、特にEU27の飼料用消費は、ウクライナからの需要に見合ったとうもろこしの輸入ができず、その減少分を小麦が代替をすることから、前月に比べ0.5百万トン上方修正され46.0百万トンの見込み。

また、EU27の輸出量は、ここ数か月の輸出の伸び悩みにより、前月予測から3.5百万トン下方修正され、34.0百万トンの見込み。EUの主要輸出国のフランス、リトアニア、ポーランドで輸出量が減少しているが、フランスの輸出量は、アルジェリアが外交問題によりフランス産の輸入を停止したために特に減少している。また、リトアニアは収穫量の減少からナイジェリア向けの輸出が減少した。また、ポーランドもアルジェリア、サウジアラビア向けの輸出が減少している。

なお、ロシアによるウクライナ侵攻の影響で高騰した国内価格の措置として、ブルガリアとハンガリーでは、各政府がEUの規則に反する穀物輸出の制限を実施し、国家在庫の積み増しを図っている。ブルガリア政府は4月7日現在、税関は輸出を遅らせ、輸出貨物の24時間監視体制をとっている。また、小麦輸出量がEUのわずか1%であるハンガリーは、穀物の輸出を制限している。

小麦－EU27+英国（冬小麦を主に栽培）

(単位：百万トン)

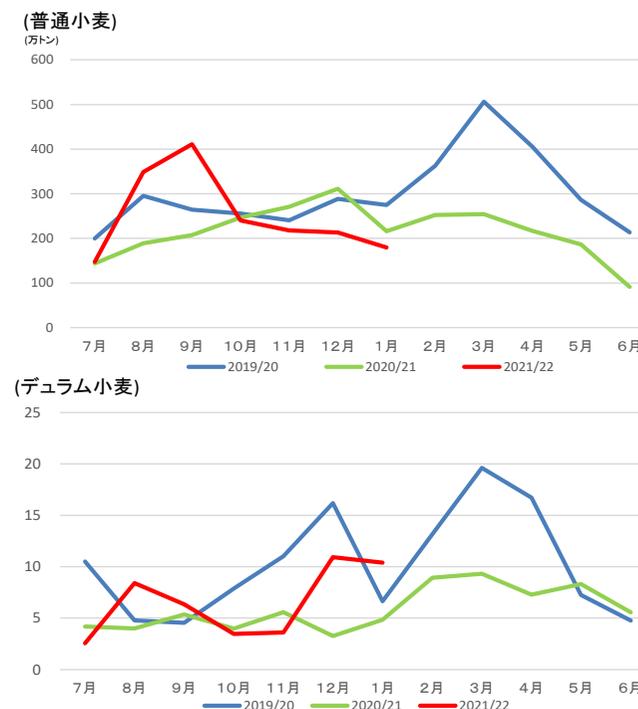
年度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	154.4	136.4	152.4 (152.0)	▲ 0.6	11.8
消費量	122.5	118.2	123.6 (121.0)	0.6	4.5
うち飼料用	53.2	48.5	53.4 (48.8)	0.5	10.1
輸出量	41.4	30.2	34.7 (35.3)	▲ 3.5	14.9
輸入量	7.3	8.6	6.8 (7.2)	▲ 0.3	▲ 20.9
期末在庫量	15.6	12.1	13.1 (14.0)	1.8	8.0
期末在庫率	9.5%	8.2%	8.3% (9.0%)	▲ 0.1	0.1

(参考)

収穫面積(百万ha)	26.16	24.37	26.02 (25.63)	0.09	6.8
単収(t/ha)	5.90	5.59	5.86 (5.93)	▲ 0.05	4.7

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(8 April 2022)
IGC 「Grain Market Report」(17 March 2022)
表内及び()内のデータはEU27ヶ国+英国のデータ

図 EU27か国の普通小麦、デュラム小麦の輸出量の推移



資料：EC(欧州委員会), Cereals exports and imports (COMEXT) (2022/3/17) をもとに農林水産省で作成

< 中国 > 2021/22 年度の冬小麦の作柄は休眠期後に天候に恵まれ改善

【生育・生産状況】中国糧油情報センター(2022.4.8)によれば、2021/22 年度の生産量は、前月予測から変更なく 136.9 百万トンで、史上最高の見込み。作期別には、冬小麦は 131.3 百万トン、春小麦は 5.6 百万トン。なお、省別の冬小麦生産量のシェアは、河南省(26.4%)、山東省(20.0%)、安徽省(13.3%)、江蘇省(10.1%)の順。

中国中央气象台(2022.4.4)によれば、2022/23 年度の冬小麦は、多くの地域で降水に恵まれ土壌水分は十分であったものの、河北省中部、陝西省西南部等では土壌水分がわずかに不足している。また、冬小麦の生育段階は、北部の華北地域や、山東省等では、節間伸長期から莖立期、河南省、安徽省等では節間伸長期から穂孕み期となっている。一方、春小麦は、甘肅省、陝西省等で播種期から三葉期となっている。なお、中国農業農村部によると、前年度の秋の洪水により、冬小麦の播種に遅れが発生したが、休眠期後の良好な天候と中央政府及び各地方政府の生産安定措置により、冬小麦の作柄は改善しつつあり、全国の冬小麦の一、二類苗の比率は 84.7%と、休眠期前より、14.2 ポイント向上した。

【貿易情報・その他】中国糧油情報センターによれば、2021/22 年度の消費量は、飼料用が 0.6 百万トン下方修正されたものの、種子用が 0.8 百万トン上方修正されたことから、前月に比べ、0.2 百万トン上方修正され 145.3 百万トンの見込み。この飼料用需要減少の要因は、小麦ととうもろこしの価格の逆転が解消しつつあり、小麦の価格優位性が失われたことである。

また、小麦輸入量は前月に比べ、0.2 百万トン上方修正され 8.2 百万トンの見込み。中国海関統計によれば、2022 年 2 月の小麦輸入量は、春節が前年より早かった影響により前年度同期(98.1 万トン)を 31.1%下回る 67.6 万トン。2022 年 1 月から 2 月の輸入先国は、豪州(52.7%)、フランス(39.9%)の順で、この 2 カ国で全体の 92.6%を占めている。なお、2022 年 1 月から 2 月までロシアからの輸入実績はないものの、本年 2 月 4 日に、ロシア産小麦の輸入に関する植物検疫上の地域限定の撤廃に合意している。なお、2021 年の小麦輸入量全体に占めるロシア産小麦の輸入量の比率は 0.5%であった。

農業農村部「農産品供需形勢分析月報 2022 年 2 月号」によれば、3 月以降に向けて、国内小麦価格は、国内的には市場需要の改善傾向や小麦粉加工企業の仕入れの増加の一方、国際需給ギャップ拡大とウクライナ侵攻の影響で、国際価格が大幅に上昇している影響から高水準で推移すると見られている。

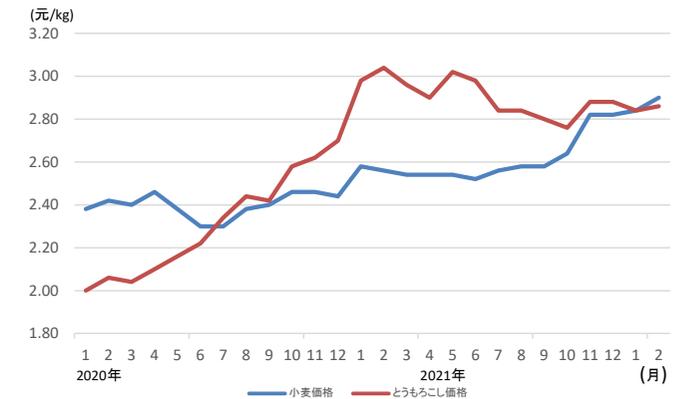
小麦—中国(冬小麦を主に栽培)

(単位:百万トン)

年度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	133.6	134.3	137.0 (137.1)	-	2.0
消費量	126.0	150.0	147.5 (142.0)	-	▲ 1.7
うち飼料用	19.0	40.0	35.0 (28.4)	-	▲ 12.5
輸出货量	1.1	0.8	0.9 (1.3)	-	18.4
輸入量	5.4	10.6	9.5 (9.6)	-	▲ 10.5
期末在庫量	150.0	144.1	142.2 (131.8)	-	▲ 1.4
期末在庫率	118.1%	95.6%	95.8% (92.0%)	-	0.2
(参考)					
収穫面積(百万ha)	23.73	23.38	23.57 (23.8)	-	0.8
単収(t/ha)	5.63	5.74	5.81 (5.76)	-	1.2

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(8 April 2022)
IGC 「Grain Market Report」(17 March 2022)

図 中国国内の小麦及びとうもろこしの卸売価格の推移



注: 小麦: 河南省鄭州市食料卸売市場の卸売価格、とうもろこし: 全国平均卸売価格

資料: 中国国家糧油情報センター

表 中国の小麦輸入先国別輸入量 (万トン)

国名	2022年2月 輸入量	シェア(%)	国名	2022年1-2月 累計輸入量	シェア(%)	国名	2021年 輸入量	シェア(%)
フランス	36.9	54.6	豪州	114.6	52.7	豪州	273.4	28.1
豪州	29.3	43.3	フランス	86.8	39.9	米国	272.6	28.1
カナダ	1.2	1.8	カナダ	15.6	7.2	カナダ	254.0	26.1
カザフスタン	0.1	0.2	カザフスタン	0.4	0.2	フランス	141.6	14.6
米国	0.0	0.0	米国	0.0	0.0	カザフスタン	18.7	1.9
その他	0.0	0.0	その他	0.0	0.0	その他	11.5	1.2
合計	67.6	100.0	合計	217.5	100.0	合計	971.8	100.0

資料: 中国海関統計(2022.3.20)をもとに農林水産省で作成

< ロシア > 輸出の継続から輸出量は1.0百万トン上方修正

【生育・生産状況】USDAによれば、2021/22年度の生産量(クリミア地域分を含まず)が、前月予測から変更なく、75.2百万トンと前年度に比べ11.9%減の見込み。

2022/23年度の冬穀物の生育状況は、ロシアヨーロッパ部の北部(中央連邦管区等)ではおおむね並みであるものの、北西部では立ち枯れの懸念もある。また、南部(南連邦管区等)の大部分では生長が再開された。一方、春小麦は、南部で作付けが開始されており、ロシア農業省の速報値によれば、播種面積は、4月8日時点で前年同期の約2倍の0.02百万ヘクタール、播種進捗率は0.2%である。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2021/22年度の輸出量は、経済制裁や輸出税にもかかわらず、競争力のある輸出価格で黒海からの輸出が継続されていることから、1.0百万トン上方修正されたものの、前年度より15.6%減少の33.0百万トンの見込み。

なお、ロシア政府は3月14日に、2022年3月15日から6月30日までの間、ユーラシア経済同盟加盟国への小麦、大麦、とうもろこしの輸出を禁止(その後許可制に移行)し、非加盟国向けの輸出枠外の輸出も禁止した。

現地情報会社によれば、多くの輸出業者が保有する輸出枠の消化や、輸出経路がアゾフ海の港から黒海の港経由へシフトすることにより、船の手配が難しくなり、手続等に時間がかかるため、4月の輸出量は3月より減少する見通し。

一方、ロシアによるウクライナ侵攻などによる小麦価格の高騰から、ロシアの主要輸出先国であるエジプトとトルコの輸入量は、前月に比べそれぞれ0.5百万トン下方修正され、12.0百万トン、9.5百万トンの見込み。現地の情報会社によれば、ロシアの主要輸出先である中近東、北アフリカ諸国では、予想ほどロシア産からEU産へのシフトは進んでいない。

4月6日時点のロシア産の輸出価格(FOB)は、冬穀物の良好な生育状況や、黒海からの継続的な輸出から前月(3月7日)より10ドル/トン下げ、395ドル/トンと小麦主要輸出国の中で最安値となった。

なお、可変輸出関税額は、前年8月末から上昇を続け、12月中旬以降90ドル/トンを超えた。その後、税額は9週連続して下落し3月中旬には80ドル/トン台で推移したものの、4月中旬には初めて100ドル/トンを超えた。

小麦—ロシア(主産地の欧州部で冬小麦、シベリアで春小麦を栽培)

(単位:百万トン)

年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22			
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生産量	73.6	85.4	75.2 (75.0)	-	▲11.9	
消費量	40.0	42.5	41.8 (42.4)	-	▲1.8	
うち飼料用	17.0	19.0	18.5 (18.0)	-	▲2.6	
輸出量	34.5	39.1	33.0 (32.0)	1.0	▲15.6	
輸入量	0.3	0.4	0.3 (0.2)	-	▲25.0	
期末在庫量	7.2	11.4	12.1 (13.7)	▲1.0	6.2	
期末在庫率	9.7%	13.9%	16.2% (18.4%)	▲1.6	2.2	

(参考)

収穫面積(百万ha)	27.31	28.68	27.63 (28.0)	-	▲3.7
単収(t/ha)	2.70	2.98	2.72 (2.68)	-	▲8.7

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(8 April 2022)
IGC 「Grain Market Report」(17 March 2022)

図 ロシアの最近3か年の月別小麦輸出量の推移

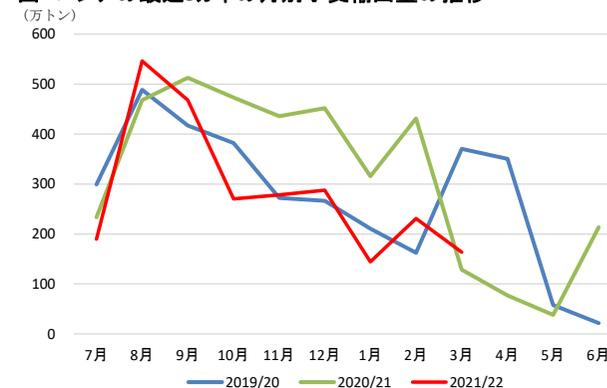


表 ロシアの小麦輸出先国

(2022年3月、2021年7月～2022年3月)

2022年3月			2021年7月～2022年3月		
国 名	輸出量 (万トン)	輸出シェア (%)	国 名	輸出量 (万トン)	輸出シェア (%)
イラン	33.1	20.2	イラン	535.7	20.8
エジプト	30.5	18.6	トルコ	466.6	18.1
トルコ	24.9	15.2	エジプト	408.8	15.9
イスラエル	4.5	2.8	アゼルバイジャン	80.0	3.1
リビア	3.5	2.1	サウジアラビア	71.5	2.8
その他	67.1	41.0	その他	1,015.9	39.4
計	163.6	100.0	計	2,578.5	100.0

資料: ロシア税関統計をもとに農林水産省で作成

<ウクライナ> ロシアの侵攻により穀物の播種面積は減少

【生育・生産状況】USDAによれば、2021/22年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、大幅な減産となった前年度より29.8%増加し、史上最高の33.0百万トンの見込み。

2022/23年度の冬小麦の生育状況は、低温の影響で生長再開日は平年より6日遅い3月29日であった。作柄は、おおむね良好から並みの状態。休眠終了後の生長段階は出芽期から分けつ期であった。4月9日、ウクライナ農業政策食料省は、州内のほぼ全域で戦闘が行われているルガンスク州を除く23州で2022/23年度の春小麦の播種が開始されたと発表。4月11日現在の春小麦の播種面積は前年度同期(0.12百万ヘクタール)並みの0.13百万ヘクタール。

ウクライナ農業政策食料省次官は4月11日、2022/23年度は穀物の播種予定面積の70%で播種ができる見込みと発言。一方、現地情報会社によれば、紛争により穀物の播種面積は冬穀物で前年度対比41%、春穀物で39%の減少が見込まれる。このうち、春小麦の播種面積の減少分は23%と見られている。なお、播種作業では、播種の準備資金の調達(紛争により穀物在庫の売却が困難)、港湾の閉鎖や道路等の輸送インフラの破壊、運転手不足等による資材(種子、肥料、燃料等)搬送・確保等が困難となっている。

なお、ウクライナ穀物協会は4月11日、穀物全体で5.0百万ヘクタールの播種または収穫が不可能と予測し、2022/23年度の小麦の生産量を18.2百万トン(2021/22年度33.0百万トン)と発表。

【貿易状況・その他】USDAによれば、2021/22年度の輸出量は、黒海の港湾がロシアの侵攻により2月最終週から閉鎖されたことにより、前月予測から1.0百万トン下方修正され19.0百万トン(対前年度比12.8%増)の見込み。なお、これまでに同年度の輸出量予測の大部分はすでに輸出されている。

現在の輸出状況は、黒海の港湾の閉鎖により主にEU諸国へ陸路輸送(鉄道等)が行われており、輸送能力は月に0.6百万トンと見られている。現地情報によれば、ウクライナとEUのレール幅の相違による物流の遅れが発生しているが、ウクライナ鉄道総裁によれば、将来的に西側国境の輸送能力の拡大、農業従事者への燃料や肥料輸送の強化に注力するとしている。

ウクライナ穀物協会によれば、2022/23年度の輸出量は10.0百万(2021/22年度は19.0百万トン)の見込み。

小麦－ウクライナ (主に冬小麦を栽培) (単位:百万トン)

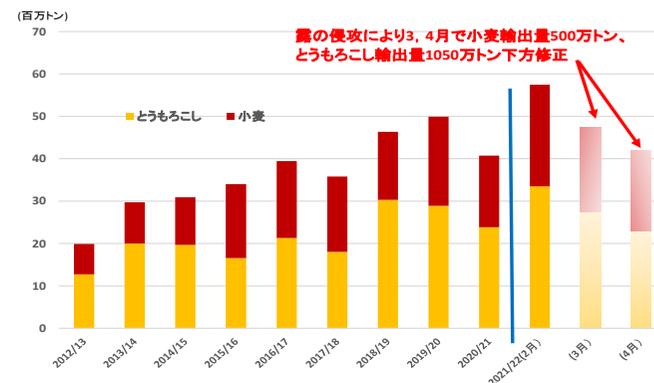
年度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	29.2	25.4	33.0 (33.0)	-	29.8
消費量	8.3	8.7	10.0 (8.6)	0.4	14.9
うち飼料用	2.2	2.6	4.0 (2.4)	0.5	53.8
輸出量	21.0	16.9	19.0 (20.8)	▲ 1.0	12.8
輸入量	0.1	0.1	0.1 (0.1)	-	▲ 23.1
期末在庫量	1.5	1.5	5.6 (5.3)	0.6	271.5
期末在庫率	5.1%	5.9%	19.3% (17.8%)	2.4	13.4

(参考)

収穫面積(百万ha)	7.02	6.85	7.40 (7.42)	-	8.0
単収(t/ha)	4.16	3.71	4.46 (4.45)	-	20.2

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(8 April 2022)
IGC 「Grain Market Report」(17 March 2022)

図 ウクライナの小麦、とうもろこしの輸出量



資料: USDA「PS&D」(2022.4.8)をもとに農林水産省で作成

表 ウクライナの小麦輸出先国 (2022年2月、2021年7月～2022年2月)

2022年2月			2021年7月～2022年2月		
国名	輸出量 (万トン)	輸出シェア (%)	国名	輸出量 (万トン)	輸出シェア (%)
エジプト	23.1	22.2	エジプト	273.8	15.1
トルコ	18.3	17.6	インドネシア	265.5	14.7
パキスタン	10.6	10.2	トルコ	178.7	9.9
イエメン	8.7	8.4	パキスタン	146.9	8.1
アルジェリア	7.7	7.4	サウジアラビア	75.1	4.1
その他	35.6	34.2	その他	871.3	48.1
計	104.0	100.0	計	1,811.3	100.0

資料: ウクライナ税関統計をもとに農林水産省で作成

2 とうもろこし

(1) 国際的なとうもろこし需給の概要（詳細は右表を参照）

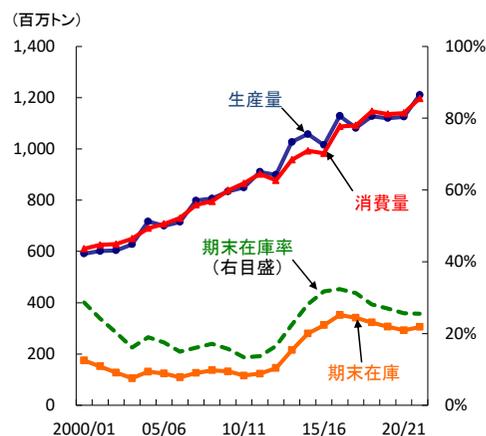
＜米国農務省（USDA）の見通し＞ 2021/22 年度

生産量 前年度比 ↑ 前月比 ↑
 ・ブラジル、インドネシア、パキスタン等で上方修正され、前月から上方修正された。史上最高の見込み。

消費量 前年度比 ↑ 前月比 ↑
 ・中国等で下方修正も、ウクライナ等で上方修正され、前月から上方修正された。史上最高の見込み。

輸出量 前年度比 ↑ 前月比 ↓
 ・ブラジル等で上方修正も、ウクライナ等で下方修正され、前月から下方修正された。史上最高の見込み。

期末在庫量 前年度比 ↑ 前月比 ↑



資料：USDA「PS&D」（2022.4.8）をもとに農林水産省にて作成

◎世界のとうもろこし需給

(単位：百万トン)

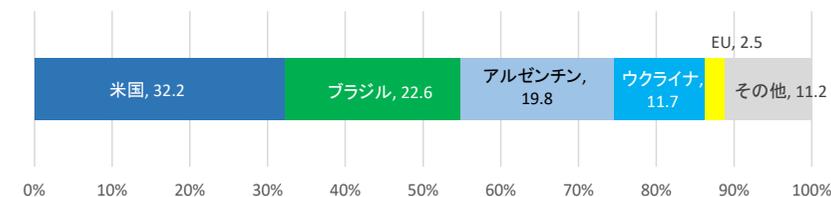
年度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22		
			予測値	前月予測からの 変更	対前年度 増減率(%)
生産量	1,120.1	1,125.9	1,210.5	4.3	7.5
消費量	1,136.2	1,140.1	1,197.2	0.5	5.0
うち飼料用	716.0	722.9	752.6	▲ 0.8	4.1
輸出量	172.3	182.1	197.0	▲ 2.9	8.2
輸入量	167.7	185.6	182.1	▲ 3.5	▲ 1.9
期末在庫量	306.4	292.2	305.5	4.5	4.6
期末在庫率	27.0%	25.6%	25.5%	0.4	▲ 0.1

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(8 April 2022)

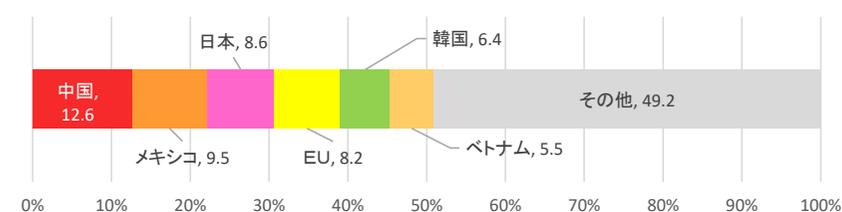
○ 2021/22 年度 世界のとうもろこしの生産量(1,210.5百万トン)(単位：%)



○ 2021/22 年度 世界のとうもろこしの輸出量(197.0百万トン)



○ 2021/22 年度 世界のとうもろこしの輸入量(182.1百万トン)



(2) 国別のとうもろこしの需給動向

< 米国 > 生産量史上第2位、エタノール用需要増、輸出減の見通し

【生育・生産状況】3月末にUSDAから発表された作付意向面積調査によれば、2022/23年度の作付面積は36.2百万ヘクタールで前年度より4.1%減の見込み。大豆と比べ肥料の投入量が多いことから、肥料価格高騰の影響もあり市場の事前予想を下回った。

USDA「Crop Progress」(2022.4.18)によれば、4月前半の中西部の低温多湿な天候により、2022/23年度の作付け進捗率は4%と、前年度同期(7%)及び過去5年平均(6%)より遅れている。

なお、2021/22年度の実生産量は、前月予測からの変更はなく、史上最高の単収となったことから前年度より7.1%増の383.9百万トンと2016/17年度に次ぐ史上第2位の見込み。

【需要状況】USDAによれば、2021/22年度の消費量は、飼料用需要が前年12月から2月の実績を反映し前月予測から0.6百万トン下方修正された一方、エタノール用需要が3月までの旺盛なエタノール生産データを反映し前月予測から0.6百万トン上方修正されたことから、消費量全体では前月予測からの変更はなく、前年度より3.0%増の315.9百万トンで史上最高の見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2021/22年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、史上最高の輸出量となった前年度より9.2%減の63.5百万トンの見込み。

USDAによれば、2022年輸出検証高(2022年1月6日～3月31日)は、17.3百万トンであり、内訳は中国(5.0百万トン)、メキシコ(4.0百万トン)、日本(3.5百万トン)、コロンビア(1.4百万トン)の順である。

USDAによれば、2021/22年度の期末在庫量は、前月予測からの変更はなく、前年度より16.6%増の36.6百万トンの見込み。なお、期末在庫率は9.6%で依然として低水準の見込み。

とうもろこし—米国

(単位：百万トン)

年度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22		
			予測値	前月予測からの 変更	対前年度 増減率(%)
生産量	346.0	358.5	383.9	-	7.1
消費量	309.6	306.5	315.9	-	3.0
うち飼料用	149.9	142.2	142.9	▲ 0.6	0.5
エタノール用等	123.4	127.8	136.5	0.6	6.8
輸出量	45.1	69.9	63.5	-	▲ 9.2
輸入量	1.1	0.6	0.6	-	3.2
期末在庫量	48.8	31.4	36.6	-	16.6
期末在庫率	13.7%	8.3%	9.6%	-	1.3

(参考)

収穫面積(百万ha)	32.92	33.31	34.56	-	3.8
単収(t/ha)	10.51	10.76	11.11	-	3.3

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(8 April 2022)

図：米国、ブラジル、アルゼンチンのとうもろこし輸出価格(FOB)の推移



＜ ブラジル ＞ 冬とうもろこしの作付面積拡大により、生産量史上最高の見通し

【生育・生産状況】USDAによれば、2021/22年度の生産量は、夏とうもろこしは南部の主要産地で前年11月から2月に高温・乾燥の影響を受けたものの、冬とうもろこしは例年より早く作付けが終了し、主要生産州のマット・グロッソ州、パラナ州で作付面積が拡大した上、作付け以降の天候にも恵まれていることから、前月予測から2.0百万トン上方修正され、前年度より33.3%増の116.0百万トンとなり、史上最高の見込み。

ブラジル食料供給公社（CONAB）月例報告（2022.4.7）によれば、2021/22年度の収穫終盤の夏とうもろこしの生産量は、前年度比0.6%増の24.9百万トンの見込み。一方、生育期を迎えた冬とうもろこしの生産量は、良好な天候に恵まれ、干ばつ・霜害の影響で大幅減産となった前年度に比べ45.4%増の90.7百万トンが見込まれ、合計では前年度比32.7%増の115.6百万トンで史上最高の見込み。（P.23 大豆ーブラジルのクロープカレンダー参照）。

南部のパラナ州で4月12日現在、夏とうもろこしの収穫進捗率は92%。同州では冬とうもろこしの作付けは終了し、40%以上が生殖生長段階に入っている。南部のオ・グランデ・ド・スール州で4月14日現在、夏とうもろこしの収穫進捗率は80%。

【需要状況】USDAによれば、2021/22年度の消費量は、生産量の上方修正に伴い前月予測から0.5百万トン上方修正され、飼料用消費の増加に伴い、前年度より5.0%増の73.0百万トンと史上最高の見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2021/22年度の輸出量は、生産量の上方修正に伴い前月予測から1.5百万トン上方修正され、大幅減産となった前年度の2.1倍の44.5百万トンで史上最高の見込み。

ブラジル貿易統計によれば、2022年1～3月の輸出量は3.5百万トンで、前年同期（3.4百万トン）と比べ3.0%増となっている。内訳は、1位がイラン72万トン、2位がエジプト70万トン、3位が韓国58万トン。

とうもろこしーブラジル

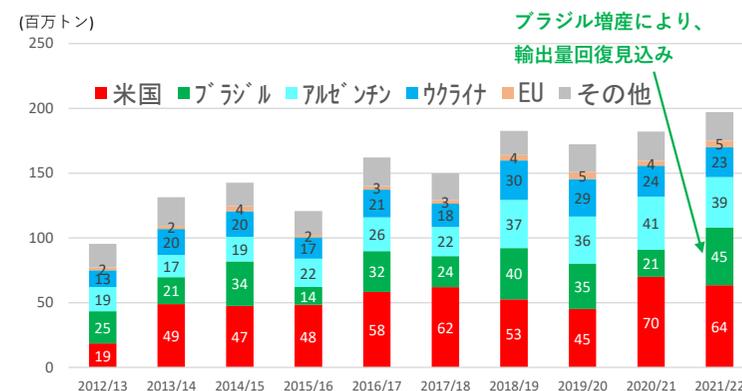
（大豆収穫後に栽培する冬とうもろこしが3/4を占め、夏とうもろこしは1/4）

（単位：百万トン）

年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22			
			予測値、() はIGC		前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	102.0	87.0	116.0	(111.5)	2.0	33.3
消費量	68.5	69.5	73.0	(73.2)	0.5	5.0
うち飼料用	58.5	59.0	62.0	(52.9)	0.5	5.1
輸出量	35.1	21.0	44.5	(38.5)	1.5	111.7
輸入量	1.7	2.9	2.0	(0.7)	-	▲29.8
期末在庫量	5.3	4.7	5.2	(6.4)	▲0.1	10.8
期末在庫率	5.1%	5.1%	4.4%	(5.7%)	▲0.1	▲0.8
（参考）						
収穫面積(百万ha)	18.50	19.90	21.10	(20.90)	0.30	6.0
単収(t/ha)	5.51	4.37	5.50	(5.34)	0.02	25.9

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(8 April 2022)
IGC「Grain Market Report」(17 March 2022)

図：世界のとうもろこし輸出国の輸出量の推移



資料：USDA「PS&D」(2022.4.8)のデータをもとに農林水産省にて作成

< アルゼンチン > 高温・乾燥も、生産量史上最高、輸出税は継続

【生育・生産状況】USDAによれば、2021/22年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、2月までの高温・乾燥による単収低下の一方、収穫面積の増加により、前年度より1.9%増の53.0百万トンと史上最高の見込み。

ブエノスアイレス穀物取引所週報（2022.4.13）によれば、収穫進捗率は19%で、最近の降雨により過去5年平均より6ポイント遅れている。作柄は良からやや良が78%と前週（76%）より改善。

【需要状況】USDAによれば、2021/22年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、飼料用消費の増加に伴い、前年度より3.7%増の14.0百万トンと史上最高の見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2021/22年度の輸出量は、前月予測から変更はなく、前年度より4.7%減の39.0百万トンの見込み。

アルゼンチン国家統計局によれば、2022年1～2月の輸出量は3.6百万トンで、前年同期（2.8百万トン）より30.1%増。内訳は、1位がマレーシア46万トン、2位がペルー44万トン、3位が韓国39万トン。輸入国での新型コロナウイルス感染症に対するロックダウンや巣ごもりなどの規制の緩和により輸出は前年に比べ好調である。なお、前年7月26日に発令された180日間のパラナ川の濁水の緊急事態宣言は前年末に終了したものの、パラナ川の水位は依然として低下傾向が続き、アルゼンチンの穀物等の輸出への影響に引き続き注視が必要である。

アルゼンチン政府は、財政赤字の補填等のため、2019年12月14日、輸出税を約7%から12%へ引き上げ、その後継続している。

2021年12月17日、アルゼンチン農牧漁業大臣が2021/22年度のとうもろこしと小麦の輸出に関し、輸出上限数量を設定することを表明。同省プレスによれば、とうもろこしの輸出上限数量は4,160万トンで国内需給に影響しない量としている。

とうもろこしーアルゼンチン

(単位：百万トン)

年度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	51.0	52.0	53.0 (57.0)	-	1.9
消費量	13.5	13.5	14.0 (20.9)	-	3.7
うち飼料用	9.5	9.5	10.0 (16.0)	-	5.3
輸出量	36.3	40.9	39.0 (35.8)	-	▲ 4.7
輸入量	0.0	0.0	0.0 (0.0)	-	-
期末在庫量	3.6	1.2	1.2 (4.0)	0.2	0.8
期末在庫率	7.3%	2.2%	2.2% (7.1%)	0.3	0.1
(参考)					
収穫面積(百万ha)	6.30	6.55	7.00 (8.30)	-	6.9
単収(t/ha)	8.10	7.94	7.57 (6.87)	-	▲ 4.7

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(8 April 2022)、
IGC 「Grain Market Report」(17 March 2022)

写真：北部サンタフェ州のとうもろこしの収穫風景 (3月19日撮影)



< 中国 > 生産量史上最高、消費量も史上最高の見通し

【生育・生産状況】USDAによれば、2021/22年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、大豆から収益性の良いとうもろこしの作付けにシフトしたことで収穫面積が増加したことから、前年度より4.6%増の272.6百万トンと史上最高の見込み。なお、中国中央気象台週報(2022.4.4)によれば、3月末時点で2022/23年度の春とうもろこしは四川省等で播種期から三葉期にある。主産地の東北地区での播種は始まっていない。

【需要状況】USDAによれば、2021/22年度の消費量は、輸入量の下方修正に伴い、前月予測から3.0百万トン下方修正されたものの、旺盛な飼料用消費から前年度より2.1%増の291.0百万トンと史上最高の見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2021/22年度の輸入量は、主要輸入先のウクライナ産の輸入量の減少を他の輸出国が完全に代替することは困難なため、前月予測から3.0百万トン下方修正され、前年度より22.1%減の23.0百万トンの見込み。なお、2020/21年度の輸入量は、29.5百万トンと史上最高の見込み。

中国の貿易統計によれば、2022年1～2月の輸入量は4.7百万トンで、春節が前年より早かった影響により前年同期比で2.3%減。内訳は、ウクライナ産2.6百万トン(56%)、米国産1.9百万トン(41%)。

農業農村部「農産品供需形勢分析月報2022年2月号」によると、2月の国内流通価格は、春節以降、とうもろこし加工企業や販売業者が積極的に在庫を補充したことで農家の手元在庫は徐々に減少したこと、ロシアのウクライナ侵攻により、国内産の先物価格が上昇したことで、現物価格が支えられ、2,820元/トンと前月(2,800元/トン)からやや上昇した。また、2月の外国産価格は2,640元/トンと前月(2,540元/トン)から大幅に上昇した。今後の中国の輸入動向に注視が必要である。

とうもろこし—中国

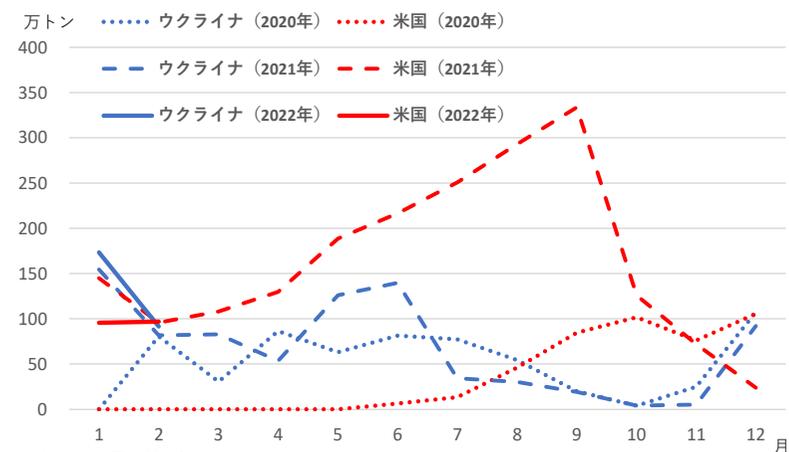
(単位：百万トン)

年度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	260.8	260.7	272.6 (272.6)	-	4.6
消費量	278.0	285.0	291.0 (295.2)	▲ 3.0	2.1
うち飼料用	193.0	203.0	211.0 (193.0)	▲ 3.0	3.9
輸出量	0.0	0.0	0.0 (0.1)	-	-
輸入量	7.6	29.5	23.0 (16.5)	▲ 3.0	▲ 22.1
期末在庫量	200.5	205.7	210.2 (188.2)	-	2.2
期末在庫率	72.1%	72.2%	72.2% (63.7%)	0.7	0.1
(参考)					
収穫面積(百万ha)	41.28	41.26	43.32 (43.32)	-	5.0
単収(t/ha)	6.32	6.32	6.29 (6.29)	-	▲ 0.5

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(8 April 2022)

IGC「Grain Market Report」(17 March 2022)

図：中国におけるウクライナ・米国産とうもろこしの輸入状況



出典：中国海関統計

注：2020年1月分と2月分は合計で公表されたため、便宜上1/2で按分

＜ ウクライナ ＞ 侵攻による黒海の港閉鎖の影響等で輸出量 450 万トン下方修正

【生育・生産状況】USDAによれば、2021/22年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、干ばつの影響で大幅減産となった前年度に比べ単収が増加したことから、前年度より38.3%増の41.9百万トンと史上最高の見込み。

ウクライナ農業政策食料省によれば、4月11日時点の2022/23年度の播種済面積は5.0万ヘクタールで中央部や北部の州を中心に前年同期（3.6万ヘクタール）より進んでいる。また、ウクライナ穀物協会の4月11日付けプレスリリースによれば、2022/23年度の実産量予測は23.1百万トン（前年度37.6百万トン）で輸出量は20.0百万トンの見込み。

【需要状況】USDAによれば、2021/22年度の消費量は、輸出量の下方修正を一部代替する形で前月予測から2.3百万トン上方修正され、前年度より85.9%増の13.2百万トンと史上最高の見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2021/22年度の輸出量は、ロシアの侵攻開始以降黒海の港が閉鎖された影響等から前月見通しで6.0百万トン下方修正された上に、さらに前月予測から4.5百万トン下方修正され、前年度より3.6%減の23.0百万トンの見込み。

USDA「Feed Outlook」（2022.4.12）によれば、ロシアはウクライナの主要輸出ルートの黒海の港を封鎖し、海上保険会社は黒海を高リスク地域に指定。ウクライナは欧州へ鉄道や隣接国の港経由で輸出を試みている。ウクライナの穀物コストは上昇し、価格競争力が低下するものの、代替手段での追加輸出はある程度可能とみられる。

ウクライナの貿易統計によれば、2021年10月～2022年2月の輸出量は17.9百万トン。内訳は、中国5.5百万トン（31%）、スペイン2.6百万トン（14%）、エジプト1.3百万トン（8%）、オランダ1.3百万トン（7%）となっている。

USDAによれば、2021/22年度の期末在庫量は、輸出量の下方修正が消費量の上方修正を上回ることから、前月予測から2.2百万トン上方修正され、前年度より約7倍の6.6百万トンの見込み。

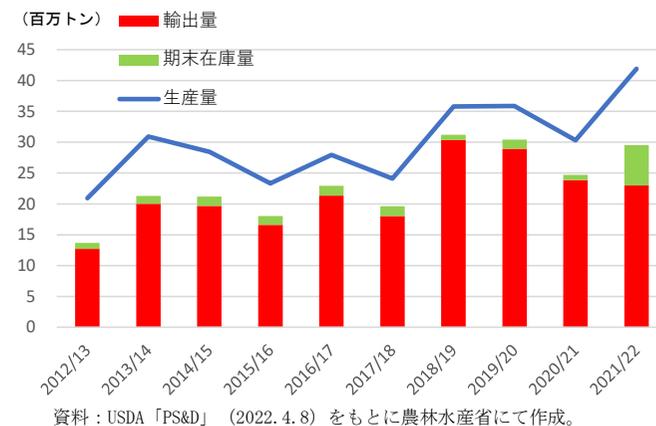
とうもろこしーウクライナ

（単位：百万トン）

年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	35.9	30.3	41.9 (41.9)	-	38.3
消費量	6.4	7.1	13.2 (9.8)	2.3	85.9
うち飼料用	5.2	5.9	12.0 (6.5)	2.3	103.4
輸出量	28.9	23.9	23.0 (21.7)	▲ 4.5	▲ 3.6
輸入量	0.0	0.0	0.0 (0.0)	-	-
期末在庫量	1.5	0.8	6.6 (12.4)	2.2	689.2
期末在庫率	4.2%	2.7%	18.1% (39.4%)	6.8%	15.4
（参考）					
収穫面積(百万ha)	4.99	5.40	5.47 (5.46)	-	1.3
単収(t/ha)	7.19	5.62	7.67 (7.67)	-	36.5

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(8 April 2022)
IGC「Grain Market Report」(17 March 2022)

図：ウクライナ産とうもろこしの生産量、輸出量、期末在庫量の推移



3 コメ

(1) 国際的なコメ需給の概要 (詳細は右表を参照)

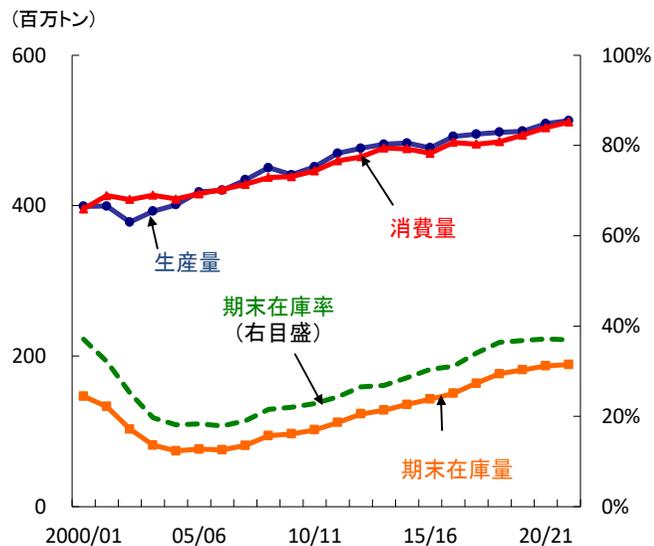
<米国農務省 (USDA) の見通し> 2021/22 年度

生産量 前年度比 ↑ 前月比 ↓
 ・インドネシア等で下方修正され、前月から下方修正された。史上最高の見込み。

消費量 前年度比 ↑ 前月比 ↑
 ・インドネシア等で下方修正も、中国等で上方修正され、前月から上方修正された。史上最高の見込み。

輸出量 前年度比 ↑ 前月比 ↑
 ・インド、タイ等で上方修正され、前月から上方修正された。史上最高の見込み。

期末在庫量 前年度比 ↑ 前月比 ↓



資料：USDA「PS&D」(2022.4.8)をもとに農林水産省にて作成

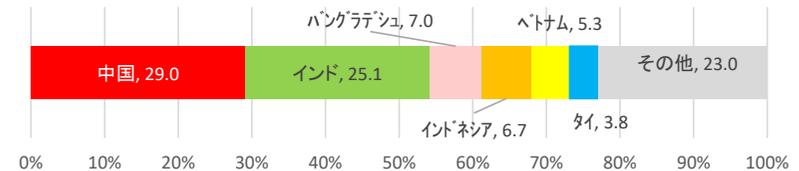
◎世界のコメ需給

(単位：百万精米トン)

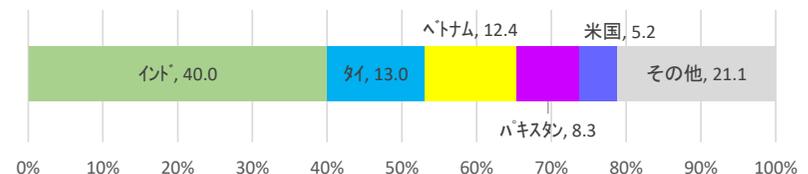
年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	498.8	508.8	513.0	▲ 1.0	0.8
消費量	493.8	503.5	511.2	0.1	1.5
輸出量	43.4	50.8	52.5	1.1	3.3
輸入量	42.3	46.3	51.4	1.4	11.0
期末在庫量	181.6	187.0	188.8	▲ 1.7	1.0
期末在庫率	36.8%	37.1%	36.9%	▲ 0.3	▲ 0.2

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(8 April 2022)

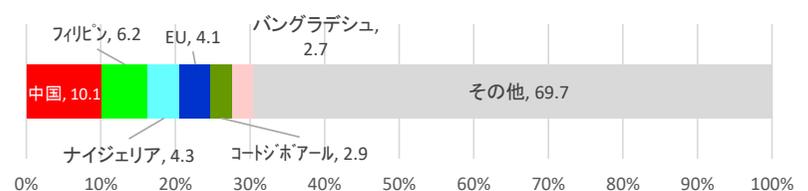
○ 2021/22年度 世界のコメの生産量 (513.0 百万トン) (単位：%)



○ 2021/22年度 世界のコメの輸出量 (52.5 百万トン)



○ 2021/22年度 世界のコメの輸入量 (51.4 百万トン)



(2) 国別のコメの需給動向

< 米国 > カリフォルニア州の作付面積が 1983/84 年度以来の低水準に

【生育・生産動向】USDAによれば、2021/22年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、対前年度比 15.7%減の 6.1 百万トンの見込み。このうち中・短粒種の実産量は、全体の約 24%を占める。なお、USDA が 3 月末に公表した作付意向面積調査によれば、2022/23 年度の作付面積は 99 万ヘクタールと前年度から 3%の減少。中・単粒種の主要栽培地域であるカリフォルニア州では、深刻な干ばつが発生したことから、2年連続で作付面積が減少。特に 2022/23 年度は前年比約 15%の減少と、1983/84 年以来の低水準となった（左下図参照）。長粒種の主要栽培地域であるアーカンソー州では州全体で 2%減少。原因は主に肥料と燃料価格の高騰と、コメの代替作物であるとうもろこし・大豆価格の最近の上昇により作付けがシフトしたため。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2021/22年度の消費量は、対前年度比 4.7%減の 4.6 百万トンの見込み。輸出量は、対前年度比 8.4%減の 2.7 百万トンの見込み。輸入量は、対前年度比 10.2%減の 1.0 百万トンの見込み。2021/22年度の期末在庫量は、対前年度比 20.9%減の 1.1 百万トンの見込み。

同「Rice Outlook」（2022.4.12）によれば、4月5日時点の地中海向けカリフォルニア米（1等、砕米4%混入）の価格は2月末の見込と変わらず最高値の 1,220 ドル/トン。中粒種の価格上昇の要因は、米国内の中粒種の大部分を生産するカリフォルニア州において、2021年に深刻な干ばつが発生した影響で、生産量が約 18%減少したことによる。カリフォルニア州における水の供給が引き続き懸念されている。

4月5日までの週のイラク向け長粒種（2等、砕米4%混入）は、前月からわずかに上昇し、665 ドル/トン（P.20の「長粒種の FOB 価格の推移」を参照）。

コメー米国

主に長粒種はミシシッピ川沿いで栽培、中・短粒種のシェアは約 24%
米国のコメ生産に占めるカリフォルニア州のシェアは約 2割

(単位：百万精米トン)

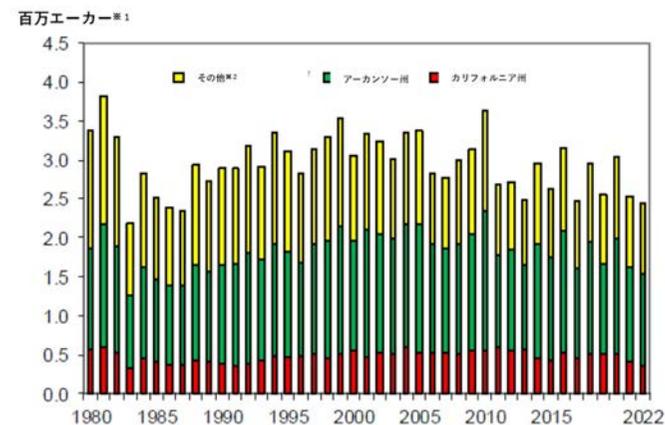
年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	5.9	7.2	6.1	-	▲ 15.7
消費量	4.6	4.9	4.6	-	▲ 4.7
輸出量	3.0	3.0	2.7	-	▲ 8.4
輸入量	1.2	1.1	1.0	-	▲ 10.2
期末在庫量	0.9	1.4	1.1	-	▲ 20.9
期末在庫率	12.0%	17.8%	15.0%	-	▲ 2.8

(参考)

収穫面積(百万ha)	1.00	1.21	1.01	-	▲ 16.5
単収(もみt/ha)	8.38	8.54	8.64	-	▲ 1.2

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(8 April 2022)

図：米国の作付面積の推移（2022年）



※1 1エーカー=0.4047ヘクタール

※2 その他は、ルイジアナ州、ミズーリ州、ミシシッピ州、テキサス州。

資料：USDA「Rice Outlook」(2022.4.12)

< インド > コメ相場が同国の小麦・とうもろこし相場を下回る

【生育・生産動向】USDAによれば、2021/22年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、対前年度比3.7%増の129.0百万トンで、6年連続で至上最高を更新。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2021/22年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、対前年度比2.4%増の103.5百万トンで史上最高の見込み。

同「Grain: World Markets and Trade」(2022.4.8)及び「Rice Outlook」(2022.4.12)によれば、2021/22年度の輸出量は、史上最高の生産量や豊富な在庫量、価格競争力から、予想をはるかに上回る出荷ペースにより、前月予測から0.5百万トン上方修正され、21.0百万トンとなり、前年を4.0%上回る見込み。特に中国への砕米の輸出は引き続き非常に旺盛。

2021/22年度の期末在庫量は、前月予測から0.5百万トン下方修正され、41.5百万トン。なお、インドの期末在庫量は世界全体の約2割を占める見通し。

インド商務省の輸出量データによれば、2021年4月～2022年2月の累積輸出量は1.91百万トンであり、輸出量の多い国の上位はバングラデシュ(1.6百万トン)、中国(1.4百万トン)、ベナン(1.3百万トン)となっている。

USDA「Rice Outlook」(2022.4.12)によれば、インド産米(砕米5%混入)の4月5日までの週の価格は、前月からトン当たり5ドル下落して345ドル/トンとなったが、アジアの主要輸出国の中で最も低い価格である。(P.20の「長粒種のFOB価格の推移」を参照)

また、「Grain: World Markets and Trade」(2022.4.8)によると、世界最大のコメ輸出国であるインドのコメ輸出価格は安定的に推移しているものの、ロシアのウクライナ侵攻による情勢の緊迫化により、現在、小麦ととうもろこしの主要輸出国の輸出価格を下回るという異例の状況。過去、コメの輸出価格が主要小麦輸出国の輸出価格を下回ったのは2007年と2008年のみで、コメの輸出価格が主要とうもろこし輸出国の輸出価格を下回るのは初めて。

コメーインド

雨季をカリフ、乾季をラビと呼ぶ。北部はカリフ・ラビ(小麦)の二毛作、南部はカリフ・ラビの二期作。主にインディカを栽培

(単位:百万精米トン)

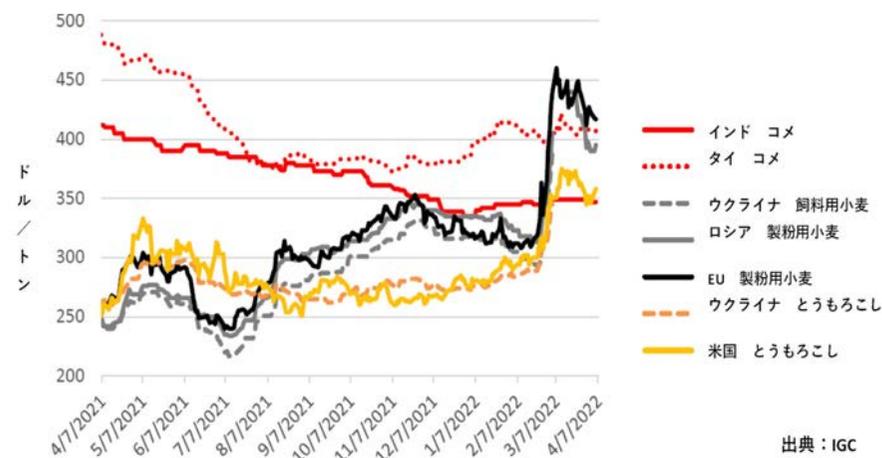
年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22			
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生産量	118.9	124.4	129.0 (127.9)	-	3.7	
消費量	102.0	101.1	103.5 (105.0)	-	2.4	
輸出量	12.5	20.2	21.0 (20.1)	0.5	4.0	
輸入量	0.0	0.0	0.0 (0.0)	-	-	
期末在庫量	33.9	37.0	41.5 (38.9)	▲ 0.5	12.2	
期末在庫率	29.6%	30.5%	33.9% (31.1%)	▲ 0.5	3.4	

(参考)

収穫面積(百万ha)	43.66	45.77	47.00 (45.75)	-	2.7
単収(もみt/ha)	4.08	4.08	4.12 (2.80)	-	1.0

資料:USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(8 April 2022)
IGC「Grain Market Report」(17 March 2022) (単収は精米t/ha)

図: 安定的なコメの輸出価格と変動が大きい小麦・とうもろこしの輸出価格の対比



出典: IGC

< 中国 > コメの飼料向け需要が増加

【生育・生産動向】USDAによれば、2021/22年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、対前年度比0.5%増の149.0百万トンで史上最高の見込み。

また、2022/23年度について、中国中央气象台（2022.4.4）によれば、二期作早稲は、福建地区は移植から三葉期、広東地区は三葉から活着期、広西地区は活着から出苗期、湖北、安徽地区は播種期、湖南、江西地区は出苗から三葉期に入っている。一期作稲は、福建地区は播種期に入っており、四川地区は播種から出苗期に入っている。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2021/22年度の消費量は、前月予測から飼料向け碎米の需要が増加していることから0.6百万トン上方修正され、対前年度比3.4%増の155.4百万トンで史上最高の見込み。

2021/22年度の輸入量は、前月予測からインドやパキスタンからの碎米の輸入増により0.6百万トン上方修正され、対前年度比23.2%増の5.2百万トンの見込み。

なお、中国海関統計によれば、2022年1-2月の輸入量は1.1百万トンで対前年同期の0.9百万トンより約3割増加している。

USDAによれば、2021/22年度の期末在庫量は、前月予測からの変更はなく、対前年度比3.0%減の113.0百万トンの見込み。なお、世界の期末在庫量の約6割を中国が占める見通し。

中国農業農村部「農産品供需形勢分析月報2月号」によれば、春節後の企業の操業再開や学校の授業再開により、コメ需要は増加したものの、前年同期を大幅に下回っている。加工、卸売、小売等の市場関係者は主に在庫を消化しており、インディカ米価格はやや下落した。ジャポニカ米の供給量は持続的に増加し、価格はやや下落した。2022年2月の全国平均品種別米卸売価格は、早稲インディカ米は3,780元/トン（前月同）、晩稲インディカ米4,040元/トン（前月より0.5%下落）、一期作ジャポニカ米4,020元/トン（前月より1.0%下落）になっている。

コメ－中国

北部で一期作、南部で二期作。ジャポニカ(粳)米は東北地区、江蘇省等で栽培、生産シェアは3割程度

(単位：百万精米トン)

年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	146.7	148.3	149.0 (149.5)	-	0.5
消費量	145.2	150.3	155.4 (153.5)	0.6	3.4
輸出量	2.6	2.2	2.3 (2.4)	-	1.4
輸入量	2.6	4.2	5.2 (4.6)	0.6	23.2
期末在庫量	116.5	116.5	113.0 (107.5)	-	▲ 3.0
期末在庫率	78.8%	76.4%	71.9% (69.0%)	▲ 0.3	▲ 4.5
(参考)					
収穫面積(百万ha)	29.69	30.08	29.92 (45.75)	-	▲ 0.5
単収(もみt/ha)	7.06	7.04	7.11 (4.98)	-	1.0

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、

「World Agricultural Production」(8 April 2022)

IGC「Grain Market Report」(17 March 2022) (単収は精米t/ha)

表 中国のコメ輸入先国別輸入量

(万吨)

2022年1月～2月			2021年1月～2月			2021年1月～12月		
国名	輸入量	シェア(%)	国名	輸入量	シェア(%)	国名	輸入量	シェア(%)
パキスタン	34.7	30.8	パキスタン	29.4	33.6	インド	109.1	22.3
インド	24.2	21.4	ミャンマー	26.0	29.7	ベトナム	107.6	22.0
ミャンマー	19.2	17.0	ベトナム	11.2	12.8	パキスタン	96.2	19.6
タイ	18.5	16.4	タイ	10.4	11.9	ミャンマー	79.6	16.3
ベトナム	7.5	6.7	インド	6.1	6.9	タイ	60.0	12.3
その他	8.8	7.8	その他	4.4	5.0	その他	37.1	7.6
合計	112.9	100.0	合計	87.5	100.0	合計	489.6	100.0

資料：中国海関統計(2022.3.20)をもとに農林水産省で作成

< タイ > アフリカ・中東向け輸出が好調により輸出量上方修正

【生育・生産動向】USDAによれば、2021/22年度（2022年1月～同年12月）の生産量は、前月予測から変更はなく、対前年度比4.5%増の19.7百万トンの見込み。降雨により貯水量が回復し、灌漑用水の供給可能量が増えたことが要因である。2020/21年度（2021年1月～同年12月）の生産量は、前月予測からの変更はなく、対前年度比6.8%増の18.9百万トンの見込み。USDAによれば4月中旬現在で、乾季米のうち40%以上の収穫が終了している。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2021/22年度の輸出量は、アフリカや中東諸国向けの輸出が好調なため、0.2百万トン上方修正され、対前年度比12.2%増の6.8百万トンの見込み。2021/22年度のタイは、ベトナムの輸出量（6.5百万トン）を凌ぎ、インドに次ぐ世界第2位のコメ輸出国となる見通し。

タイ米輸出業協会の発表によれば、2022年1～2月の輸出量は110万トンで対前年同期の85万トンを上回った。対前年同期比で中国、米国、イラク向けが大きく増加している。

USDA「Rice outlook」（2022.4.12）によれば、4月5日までの週のタイ産米（長粒、2等丸米）の輸出価格は、上下はあったものの、3月7日までの週の価格と同じ424ドル/トンとなっている（P.20の「長粒種のFOB価格の推移」を参照）。

コメ・タイ

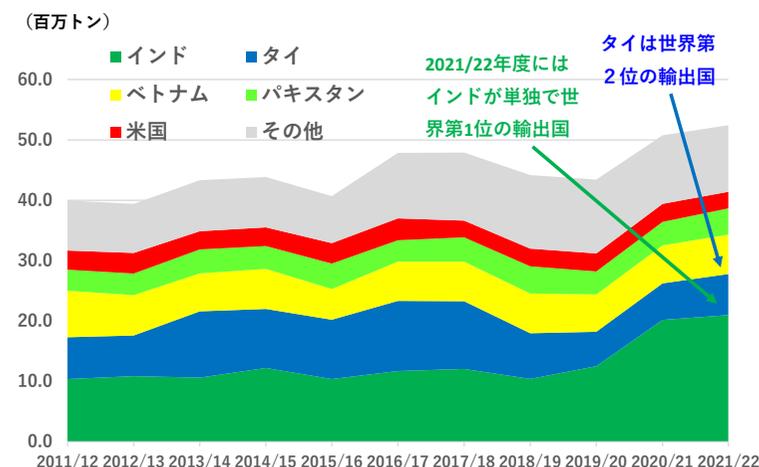
夏の雨季作と冬の乾季作で行われる。主にインディカ米を栽培

（単位：百万精米トン）

年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22			
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生産量	17.7	18.9	19.7 (19.3)	-	4.5	
消費量	12.3	12.7	13.0 (11.8)	-	2.4	
輸出量	5.7	6.1	6.8 (7.8)	0.2	12.2	
輸入量	0.3	0.2	0.2 (0.3)	-	-	
期末在庫量	4.0	4.3	4.4 (6.6)	▲ 0.2	2.3	
期末在庫率	22.1%	22.8%	23.4% (33.8%)	▲ 1.2	0.6	
(参考)						
収穫面積(百万ha)	9.89	10.51	10.60 (10.40)	-	0.9	
単収(もみt/ha)	2.70	2.72	2.82 (1.86)	-	3.7	

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(8 April 2022)
IGC「Grain Market Report」(17 March 2022)（単収は精米t/ha）

図：世界のコメの主要輸出国の輸出量の推移



資料：USDA「PS&D」（2022.4.8）をもとに農林水産省にて作成

< ベトナム > 冬春作の収穫が進展

【生育・生産動向】USDAによれば、2020/21年度（2021年1月～同年12月）の生産量は、前月予測からの変更はなく、対前年度比1.1%増の27.4百万トンの見込み。2021/22年度（2022年1月～同年12月）の生産量は、前月予測からの変更はなく、対前年度比0.7%減の27.2百万トンの見込み。

同「Rice outlook」（2022.4.12）によれば、ベトナムの主要な生産期となっている冬春作の収穫が行われている。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2021/22年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、対前年度比3.7%増の6.5百万トンの見込み。2020/21年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、対前年度比1.6%増の6.3百万トンの見込み。

2021/22年度の輸入量は、前月予測からインド産米の輸入の増加により0.2百万トン上方修正されたものの、対前年度比55.6%減の0.8百万トンの見込み。なお、2020/21年度にベトナムが例外的に大量のコメを輸入したことから、2021/22年度は対前年度に比べ減少している。

同「Rice outlook」（2022.4.12）によれば、ベトナム産米（長粒種、5%碎米混入）の4月5日までの週の価格は、タイトな供給量により前月から15ドル上昇して420ドルとなったが、依然としてタイ産米よりも低価格である。

ベトナム税関総局によれば、2022年1月の輸出量は50.6万トンであり、上位からフィリピン（23.4万トン）、コートジボワール（6.0万トン）、中国（3.7万トン）の順になっている。そのうちジャポニカ米は対前年同期比65.3%減の2.2万トンになっている。

コメベトナム

北部で二期作、南部で二期作・三期作。主に長粒種、一部で短粒種も栽培

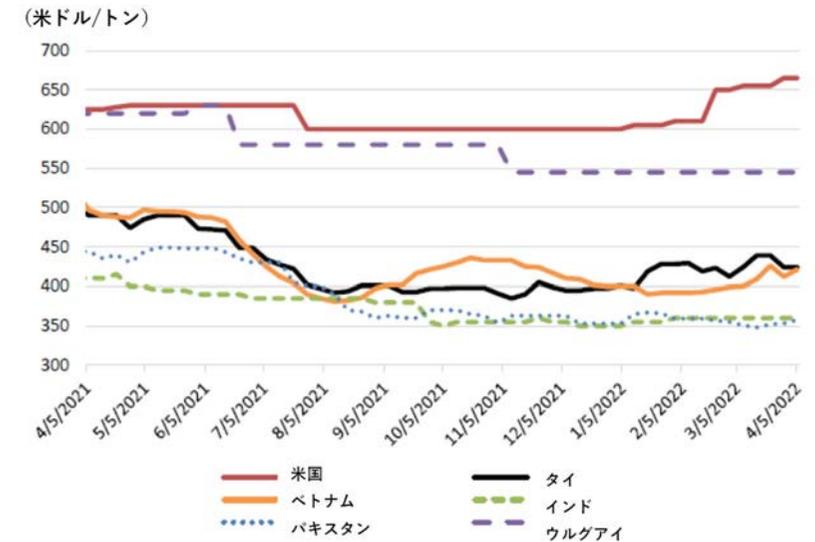
(単位:百万精米トン)

年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	27.1	27.4	27.2 (28.5)	-	▲ 0.7
消費量	21.3	21.5	21.5 (23.1)	-	0.2
輸出量	6.2	6.3	6.5 (6.5)	-	3.7
輸入量	0.4	1.8	0.8 (1.1)	0.2	▲ 55.6
期末在庫量	1.2	2.6	2.6 (3.2)	0.2	▲ 0.4
期末在庫率	4.3%	9.5%	8.7% (10.9%)	0.7	▲ 0.8
(参考)					
収穫面積(百万ha)	7.38	7.31	7.30 (7.24)	-	▲ 0.1
単収(もみt/ha)	5.88	6.00	5.96 (3.94)	-	▲ 0.7

資料:USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(8 April 2022)

IGC「Grain Market Report」(17 March 2022) (単収は精米t/ha)

図:長粒種のFOB価格の推移(ベトナム産とタイ産の価格が拮抗)



資料:USDA「Grain: World Markets and Trade」(2022.4.8)

II 油糧種子 大豆

(1) 国際的な大豆需給の概要（詳細は右表を参照）

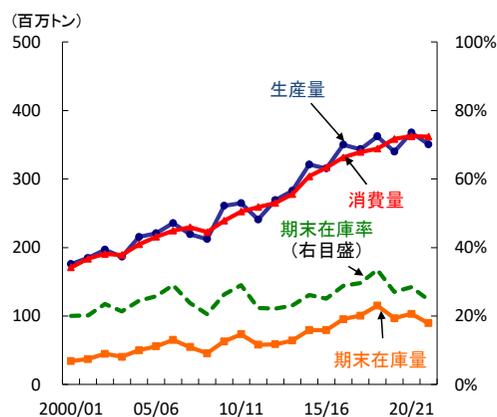
＜米国農務省（USDA）の見通し＞ 2021/22年度

生産量 前年度比 ↓ 前月比 ↓
 ・ブラジル、パラグアイで下方修正され、前月から下方修正された。

消費量 前年度比 ↓ 前月比 ↓
 ・ブラジル等で上方修正も、中国等で下方修正され、前月から下方修正された。

輸出量 前年度比 ↓ 前月比 ↓
 ・米国で上方修正も、ブラジル、パラグアイ等で下方修正され、前月から下方修正された。

期末在庫量 前年度比 ↓ 前月比 ↓



資料：USDA「PS&D」（2022.4.8）をもとに農林水産省で作成

◎世界の大豆需給

（単位：百万トン）

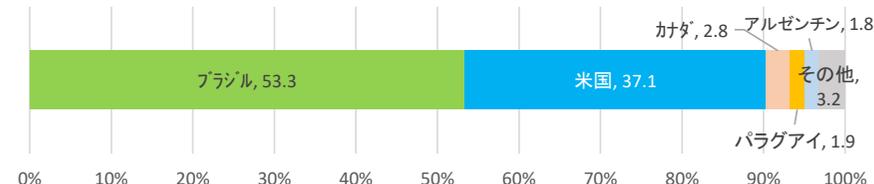
年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22		
			予測値	前月予測から の変更	対前年度 増減率(%)
生産量	340.0	367.8	350.7	▲ 3.1	▲ 4.6
消費量	358.3	362.4	361.9	▲ 1.8	▲ 0.1
うち搾油用	312.3	315.0	312.9	▲ 2.3	▲ 0.7
輸 出 量	165.2	164.5	155.3	▲ 3.3	▲ 5.6
輸 入 量	165.1	165.4	152.9	▲ 3.8	▲ 7.5
期末在庫量	96.8	103.1	89.6	▲ 0.4	▲ 13.1
期末在庫率	27.0%	28.5%	24.8%	0.0	▲ 3.7

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」（8 April 2022）

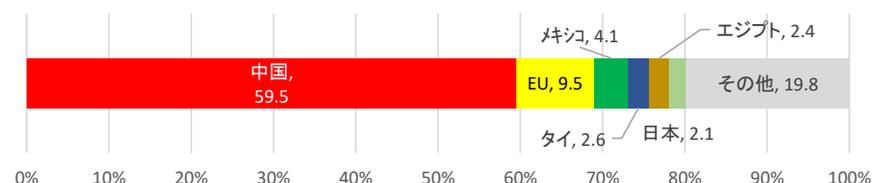
○ 2021/22年度の世界の大豆の生産量(350.7百万トン) (単位：%)



○ 2021/22年度の世界の大豆の輸出量(155.3百万トン)



○ 2021/22年度の世界の大豆の輸入量(152.9百万トン)



(2) 国別の大豆の需給動向

< 米国 > 生産量は史上最高も、輸出減の見通し

【生育・生産状況】3月末にUSDAから発表された作付意向面積調査によれば、2022/23年度の作付面積は36.8百万ヘクタールで前年度より4.3%増、史上最高の見込み。とうもろこしと比べ肥料の投入量が少ないことから、肥料価格高騰の影響もあり市場の事前予想を上回った。

USDA「Crop Progress」(2022.4.18)によれば、4月前半の中西部の低温多湿な天候により、2022/23年度の作付け進捗率は1%と、前年度同期(3%)及び過去5年平均(2%)より遅れている。

なお、USDAによれば、2021/22年度の実生産量は、前月予測からの変更はなく、前年度より5.2%増の120.7百万トンと史上最高の見込み。

【需要状況】USDAによれば、2021/22年度の実消費量は、作付意向面積調査の2022/23年度の作付面積拡大見通しを受けて種子用需要が前月予測からわずかに上方修正され、旺盛な搾油用需要から、前年度より4.0%増の63.5百万トンで史上最高の見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2021/22年度の実輸出量は、ブラジル等の輸出量の下方修正を背景に前月予測から0.7百万トン上方修正されたものの、史上最高の輸出量となった前年度より6.4%減の57.6百万トンの見込み。

USDAによれば、2022年輸出検証高(2022年1月6日～3月31日)は、13.3百万トンであり、内訳は中国(6.7百万トン)、メキシコ(1.3百万トン)、エジプト(1.1百万トン)、イタリア(0.7百万トン)、インドネシア(0.6百万トン)、日本(0.5百万トン)の順。

USDAによれば、2021/22年度の実期末在庫量は、輸出量の上方修正に伴い前月予測から0.7百万トン下方修正され、前年度より1.1%増の7.1百万トンの見込み。期末在庫率は5.8%で依然として低水準の見込み。

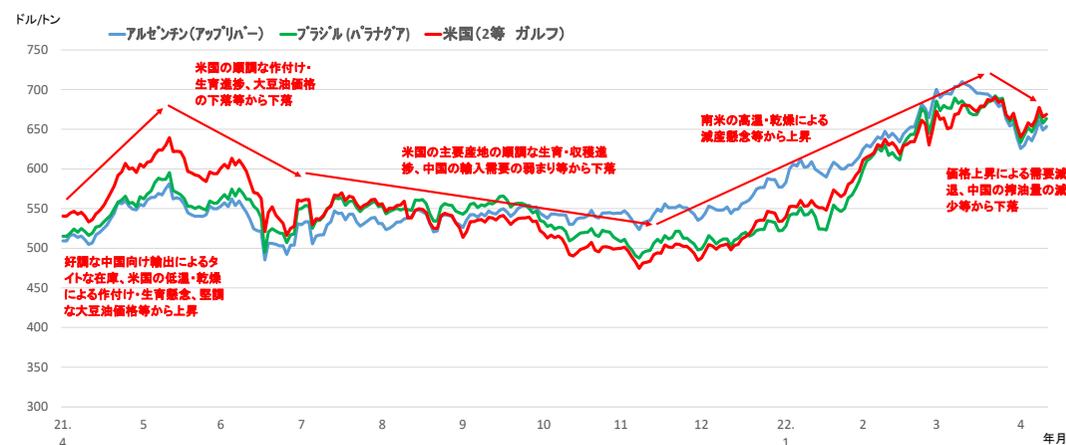
大豆—米国

(単位：百万トン)

年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22		
			予測値	前月予測からの 変更	対前年度 増減率(%)
生産量	96.7	114.8	120.7	-	5.2
消費量	61.9	61.1	63.5	0.0	4.0
うち搾油用	58.9	58.3	60.3	-	3.5
輸 出 量	45.7	61.5	57.6	0.7	▲ 6.4
輸 入 量	0.4	0.5	0.4	-	▲ 24.1
期末在庫量	14.3	7.0	7.1	▲ 0.7	1.1
期末在庫率	13.3%	5.7%	5.8%	▲ 0.6	0.1
(参考)					
収穫面積(百万ha)	30.33	33.43	34.94	-	4.5
単収(t/ha)	3.19	3.43	3.45	-	0.6

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(8 April 2022)

図：米国、ブラジル、アルゼンチン大豆輸出価格 (FOB) の推移



資料：IGCのデータをもとに農林水産省にて作成

< ブラジル > 南部の高温・乾燥で単収下方修正、生産量は減産見通し

【生育・生産状況】USDAによれば、2021/22年度の生産量は、北部と中西部の主産地では継続した降雨があり高単収となった。一方、南部産地（パラナ州、リオ・グランデ・ド・スール州等）では3月に降雨があったものの、作柄改善には遅すぎ、1月～2月の高温・乾燥の影響で単収がさらに下方修正されたことにより、前月予測から2.0百万トン下方修正され、前年度より10.4%減の125.0百万トンの見込み。

なお、ブラジル食料供給公社(CONAB)月例報告(2022.4.7)によれば、2021/22年度の実生産量は、南部の州を中心に深刻な高温・乾燥の影響を受け前月予測から0.4百万トン下方修正され、前年度より11.4%減の122.4百万トンの見込み。

最大生産州である中西部マット・グロソ州では例年より早く収穫が終了。南部のパラナ州では4月12日現在、収穫率は94%となっている。

【需要状況】USDAによれば、2021/22年度の消費量は、大豆粕の国際価格の上昇を背景に大豆粕輸出の増加が予想されることから、前月予測から搾油用消費量を中心に1.6百万トン上方修正され、前年度より1.2%増の50.5百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2021/22年度の輸出量は、生産量の下方修正と中国向け輸出の減少に伴い前月予測から2.8百万トン下方修正されたものの、前年度より1.3%増の82.8百万トンの見込み。

ブラジル貿易統計によれば、2022年1～3月の輸出量は21.0百万トンで、例年より収穫が遅れた前年同期(15.4百万トン)に比べ36.3%増となっている。内訳は、1位が中国14.9百万トン、2位がスペイン1.0百万トン、3位がオランダ0.6百万トンとなっている。

大豆ーブラジル

(単位:百万トン)

年度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22		
			予測値、()はIGC	前月予測からの変更	対前年度増減率(%)
生産量	128.5	139.5	125.0 (123.8)	▲ 2.0	▲ 10.4
消費量	49.8	49.9	50.5 (46.4)	1.6	1.2
うち搾油用	46.7	46.7	47.3 (43.9)	1.0	1.2
輸出量	92.1	81.7	82.8 (80.3)	▲ 2.8	1.3
輸入量	0.6	1.0	0.5 (0.6)	-	▲ 55.9
期末在庫量	20.4	29.4	21.6 (0.9)	0.6	▲ 26.5
期末在庫率	14.4%	22.4%	16.2% (0.7%)	0.6	▲ 6.1
(参考)					
収穫面積(百万ha)	36.90	39.20	40.80 (40.40)	0.20	4.1
単収(t/ha)	3.48	3.56	3.06 (3.06)	▲ 0.07	▲ 14.0

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(8 April 2022)
IGC 「Grain Market Report」(17 March 2022)

ブラジルのクロープカレンダー(中部から南部)

2021/22年度	2021年												2022年									
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	
夏とうもろこし	リオ・グランデ・ド・スール州等						作付 4.6(百万ha)						収穫 24.9(百万t)									→ 収穫夏冬計 115.6百万t
冬とうもろこし	作付面積夏冬計 21.1百万ha ←												作付 16.7(百万ha)			収穫 90.7(百万t)						↑ 大豆収穫後の一部圃場で冬とうもろこし播種
大豆	マット・グロソ州、パラナ州等						作付 40.8(百万ha)						収穫 122.4(百万t)									

資料: CONAB穀物レポート(2022.4.7)

< アルゼンチン > 高温・乾燥で生産量は減産見通し、輸出税は継続

【生育・生産状況】USDAによれば、2021/22年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、2月までの高温・乾燥による作柄悪化により収穫面積及び単収が影響を受けたことから、前年度より5.8%減の43.5百万トンの見込み。

ブエノスアイレス穀物取引所週報（2022.4.13）によれば、作柄は良からやや良が79%で前週（79%）から変わらず。収穫進捗率は14%で過去5年平均より13ポイント遅れている。

【需要状況】USDAによれば、2021/22年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、前年度より0.4%減の47.2百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2021/22年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、生産量の減少に伴い前年度より47.1%減の2.8百万トンの見込み。

アルゼンチン国家統計局によれば、2022年1～2月の輸出量は0.9万トンで、前年同期（2.2万トン）より57.2%減。内訳は、1位がチリ0.8万トンとなっている。収穫作業の遅れにより前年度より輸出ペースが遅くなった。なお、前年7月26日に発令された180日間のパラナ川の渇水の緊急事態宣言は前年末に終了したものの、パラナ川の水位は依然として低下傾向が続き、アルゼンチンの穀物等の輸出への影響に引き続き注視が必要である。

アルゼンチンは、大豆輸出量よりも、搾油後に発生する大豆加工品の輸出が多く、大豆油及び大豆粕については、世界第1位の輸出国である。

アルゼンチン政府は、財政赤字の補填等のため、輸出税を設定している。2021年1月以降、輸出税を大豆最大33%、大豆油及び大豆粕31%に設定。さらに、2022年3月19日付けアルゼンチン農牧漁業省プレスによれば、大豆油及び大豆粕の輸出税について2022年末まで2%引き上げ、大豆と横並びの33%と変更した。

大豆ーアルゼンチン

(単位：百万トン)

年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	48.8	46.2	43.5 (41.5)	-	▲ 5.8
消費量	45.9	47.4	47.2 (45.0)	-	▲ 0.4
うち搾油用	38.8	40.2	40.0 (39.0)	-	▲ 0.4
輸 出 量	10.0	5.2	2.8 (4.2)	-	▲ 47.1
輸 入 量	4.9	4.8	2.2 (3.0)	▲ 0.7	▲ 54.4
期末在庫量	26.7	25.1	20.8 (1.4)	▲ 0.7	▲ 17.0
期末在庫率	47.7%	47.6%	41.6% (2.8%)	▲ 1.4	▲ 6.0
(参考)					
収穫面積(百万ha)	16.70	16.47	16.00 (16.25)	-	▲ 2.9
単収(t/ha)	2.92	2.81	2.72 (2.55)	-	▲ 3.2

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」

「World Agricultural Production」(8 April 2022)

IGC「Grain Market Report」(17 March 2022)

写真：北部サンタフェ州の大豆の収穫風景
(4月3日撮影)



< 中国 > 減産見通し、消費量・輸入量は下方修正

【生産・生育状況】USDAによれば、2021/22年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、収益性の高いとうもろこし等への作付けのシフトにより収穫面積が減少したことから、前年度より16.3%減の16.4百万トンの見込み。

なお、2022/23年度の播種は4月後半から主産地の東北地区で開始される見込み。

【需要状況】USDAによれば、2021/22年度の消費量は、養豚・養鶏向け需要の減少と大豆価格の高騰による搾油マージンの悪化により、搾油用消費量が前月予測から3.0百万トン下方修正され、前年度より2.6%減の108.7百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2021/22年度の輸入量は、搾油量の減少に伴う輸入需要の減退により前月予測から3.0百万トン下方修正され、前年度より8.8%減の91.0百万トンの見込み。

中国の貿易統計によれば、2022年1～2月の輸入量は13.9百万トンと、前年同期比で4.0%増。内訳は、米国産10.0百万トン（72%）、ブラジル産3.5百万トン（25%）。

農業農村部「農産品供需形勢分析月報 2022年2月号」によると、2月の国内価格（山東省の国産大豆工場渡し価格）は、春節後、国産大豆の売買はある程度回復し、政府による大豆の継続的な買付が大豆価格を支え、前月（6,480元/トン）からやや上昇し、6,500元/トンとなり、依然として高水準である。学校の授業再開や大豆製品加工工場の操業の全面再開により、大豆需要が高まり、今後短期的に、大豆価格は高値を維持すると予想される。2月の外国産価格（山東省の輸入大豆価格）は5,040元/トンと前月（4,460元/トン）から大幅に上昇した。今後の中国の輸入動向に注視が必要である。

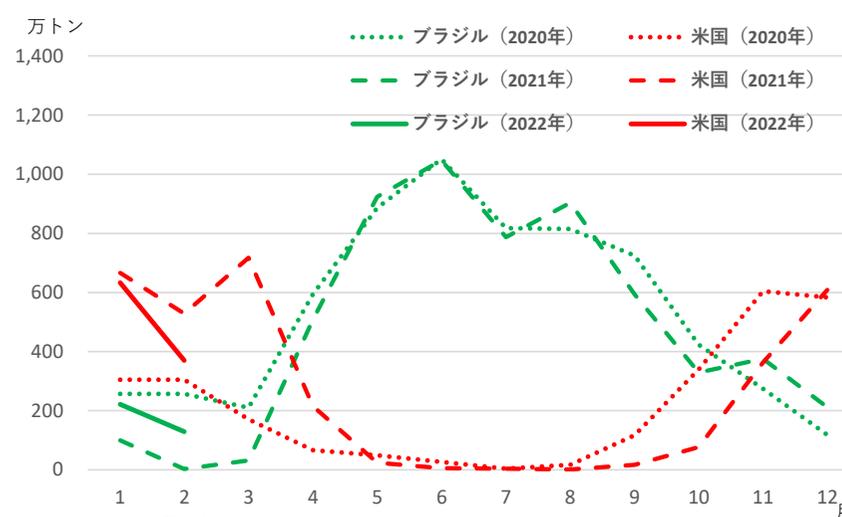
大豆—中国

(単位：百万トン)

年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	18.1	19.6	16.4 (16.4)	-	▲ 16.3
消費量	109.2	111.6	108.7 (115.0)	▲ 3.0	▲ 2.6
うち搾油用	91.5	93.0	89.0 (97.0)	▲ 3.0	▲ 4.3
輸 出 量	0.1	0.1	0.1 (0.1)	-	42.9
輸 入 量	98.5	99.8	91.0 (94.8)	▲ 3.0	▲ 8.8
期末在庫量	26.8	34.5	33.1 (27.5)	-	▲ 4.1
期末在庫率	24.5%	30.9%	30.4% (23.9%)	0.8	▲ 0.5
(参考)					
収穫面積(百万ha)	9.33	9.88	8.40 (8.40)	-	▲ 15.0
単収(t/ha)	1.94	1.98	1.95 (1.95)	-	▲ 1.5

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(8 April 2022)
IGC「Grain Market Report」(17 March 2022)

図：中国におけるブラジル、米国産大豆の輸入状況



出典：中国海関統計

注：2020年1月分と2月分は合計で公表されたため、便宜上1/2で按分

< カナダ > 西部での高温乾燥の影響で減産見通し

【生育・生産状況】USDAによれば、2021/22年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、生育期間の西部カナダでの乾燥の影響による単収の減少に伴い、前年度より1.4%減の6.3百万トンの見込み。前年11月末時点で、収穫は終了。

なお、カナダ農務農産食品省(AAFC)「Outlook for Principal Field Crops」(2022.4.20)によれば、今後作付けされる2022/23年度の実産量は、カナダ西部では土壌水分不足の懸念や小麦等の競合作物も価格が魅力的なことから作付面積の増加は抑えられるものの、高い大豆価格に支えられ、主産地のカナダ東部を中心に作付面積が増加し、前年度より4.4%増の6.6百万トンの見込み。

【需要状況】USDAによれば、2021/22年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、前年度より11.7%減の2.3百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2021/22年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、前年度より3.1%減の4.4百万トンの見込み。

カナダ穀物委員会(Canadian Grain Commission)によれば、2021/22年度(2021年8月~2022年7月)のうち、2021年8月~2022年2月の輸出量は255.5万トンで、国別では、イラン(47.1万トン)、イタリア(34.6万トン)、オランダ(22.6万トン)、アルジェリア(21.9万トン)の順。

大豆ーカナダ

(単位:百万トン)

年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22		
			予測値、()はAAFC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	6.1	6.4	6.3 (6.3)	-	▲ 1.4
消費量	2.6	2.7	2.3 (2.5)	-	▲ 11.7
うち搾油用	1.8	1.6	1.8 (1.8)	-	6.6
輸 出 量	3.9	4.5	4.4 (4.0)	-	▲ 3.1
輸 入 量	0.3	0.5	0.5 (0.4)	-	▲ 3.1
期末在庫量	0.6	0.3	0.3 (0.5)	-	8.2
期末在庫率	9.6%	4.1%	4.7% (6.9%)	-	0.6
(参考)					
収穫面積(百万ha)	2.27	2.04	2.13 (2.14)	-	4.4
単収(t/ha)	2.71	3.12	2.94 (2.93)	-	▲ 5.8

資料: USDA「PS&D」

「World Agricultural Production」(8 April 2022)

AAFC「Outlook for Principal Field Crops」(20 April 2022)

(参考)本レポートに使用されている各国の穀物年度について (2021/22年度)

	小麦	とうもろこし	コメ	大豆
米国	21年6月～22年5月	21年9月～22年8月	21年8月～22年7月	21年9月～22年8月
カナダ	21年8月～22年7月			21年8月～22年7月
豪州	21年10月～22年9月		22年3月～23年2月	
EU	21年7月～22年6月	21年10月～22年9月		
中国	21年7月～22年6月	21年10月～22年9月	21年7月～22年6月	21年10月～22年9月
ロシア	21年7月～22年6月	21年10月～22年9月		21年9月～22年8月
ブラジル		22年3月～23年2月	22年4月～23年3月	21年10月～22年9月
アルゼンチン	21年12月～22年11月	22年3月～23年2月		21年10月～22年9月
タイ			22年1月～12月	
インド	21年4月～22年3月		21年10月～22年9月	
ベトナム			22年1月～12月	

注 市場年度は、おおむね各国で作物が収穫される時期を期首として各国ごとに設定されているため、国、作物によって年度の開始月は異なります。

例えば、2021/22年度は、米国の小麦では2021年6月～2022年5月、ブラジルのとうもろこしでは2022年3月～2023年2月です。

なお、各国別、作物別の市場年度は、米国農務省によります。

<https://apps.fas.usda.gov/psdonline/app/index.html#/app/downloads> (「Reference Data」タブを参照)